



北海道の小児がん診療連携の在り方

約80000km²という広大な北海道の地域性に配慮した
小児がん診療体制の構築が必要

- ・北海道大学病院が中心となって、小児がんに関わる十分な人材、設備、支援体制、教育体制を備えている3つの大学病院で連携し全道の小児がん診療を牽引する
小児がん専門医・小児外科専門医、小児がん診療の経験豊富な放射線科医、病理医
その他、小児がん診療に関わる多診療科や緩和ケアチーム、多職種が存在
小児がん関連の臨床試験・治験、がんパネル、先進医療
長期フォローアップ体制・移行期医療(成人移行支援)のモデル
専門研修プログラム(研修体制にかかる定期会合など)
- ・各大学病院のネットワークを利用し、各地域の主要な総合病院において一定のレベルの小児がん診療が行えるよう担保する
地域の中核施設との連携ネットワークを利用した小児がん症例の紹介と長期フォローアップ、ならびに臨床試験や治験などについての協力体制
- ・総合病院のみならず腫瘍性疾患に特化している専門病院とも連携する
血液腫瘍や骨軟部腫瘍など
- ・先端的な通信手段を駆使し、距離的問題を可能な限り解消するよう努める
インターネット(メーリングリスト、web講演会、web面談)を利用した情報共有・症例検討・医療相談・研修会
ならびに闘病中の患児の学習機会の保持(自治体、教育委員会との連携)

北海道ブロック連携施設

★北海道大学病院

☆札幌医科大学附属病院

☆札幌北楡病院

☆北海道立子ども総合医療・療育センター（コドモックル）

●北海道がんセンター

- ・天使病院
- ・市立札幌病院
- ・KKR札幌医療センター

北海道全域から患者を受入れ
地域と連携して長期フォローアップ



北海道ブロックのカテゴリー別施設について

【カテゴリー1】

★北海道大学病院（小児がん拠点病院）

小児がん拠点病院、小児血液・がん専門医研修施設
道央・道南・道東に連携ネットワーク

☆札幌医科大学病院（1-A）

小児血液・がん専門医研修施設、道央・道南・道東に連携ネットワーク

☆旭川医科大学病院（1-A）

小児血液・がん専門医研修施設、道北に連携ネットワーク

☆札幌北楡病院（1-A）

小児血液・がん専門医研修施設、血液腫瘍の症例数が多い

☆北海道子ども総合医療・療育センター（コドモックル）（1-B）

小児血液・がん専門医研修施設、固形腫瘍の症例数が比較的多い

【カテゴリー2】

●北海道がんセンター

小児骨軟部腫瘍の外科的経験値が高く症例数が比較的多い

【カテゴリー3】

（※前スライド○施設参照）

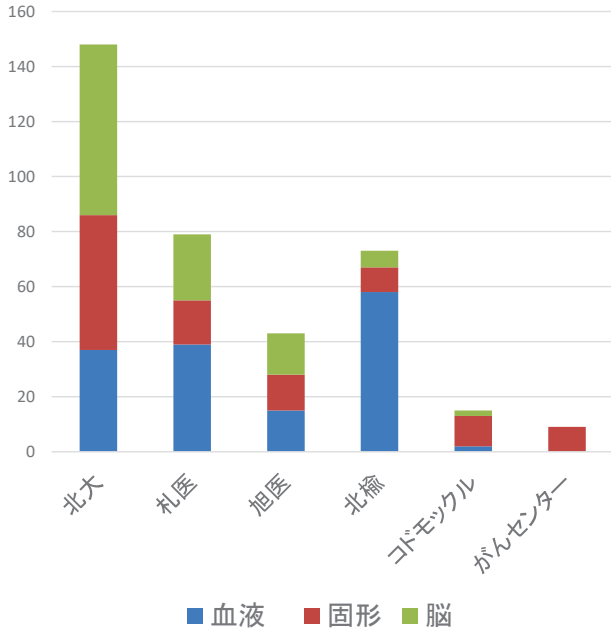
地域の総合病院として高い医療レベルを保持

診療実績（北海道ブロック）

・2019年-2021年の新規症例総計（北海道内の小児がん診療病院から収集）

367症例/3年＝1年間におよそ120例の新規症例

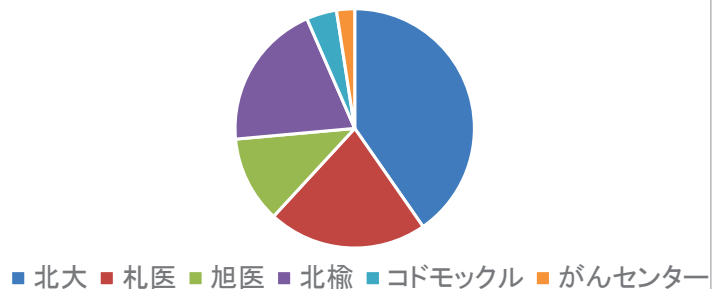
3年間の新規診断



疾患割合



施設ごとの新規診断症例数



北海道大学病院の取り組み(2022年度)(1)

1. 小児がん医療従事者研修事業

- ・小児がん医療者研修は、第13回は北海道大学病院の造血幹細胞移植推進事業と合同、第14回は日本小児血液・がん学会北海道地区教育セミナーとの合同開催で行われた。
- ・北海道大学病院 腫瘍センターセミナー(小児がん関連 webにて開催)

令和4年度 造血幹細胞移植推進事業 第13回造血幹細胞移植Webセミナー
令和4年度 第13回 北海道大学病院 小児がん拠点病院Web研究会

「AYA世代の長期フォローアップと移行期医療」

今回のセミナーでは、思春期・若年（AYA）世代の長期フォローアップと移行期医療について改めて、今後の課題について議論を共創し、より良い学びの場として提供できればと考え、開催目的としました。
研修後患者の診療を行っている行っていないに問わず、血液診療に携わって臨床医および研修の方、研修医等に賛同のある方、小児・AYAがん診療に関わる方、研修のご参加をお待ちしています。

日程 | 2023. 10/22 (土) | 定員 | 150名程度
時間 | 14:00～16:00 (開場13:50)
[対象者] 血液内科診療に関わる小児・AYAがん診療に関わる方
研修医、実習生、研修学生

開催方法 | Web
[参加費] 無料
[締め切り] 2023/10/19

第一部 講演
14:00～14:25 講演①
「小児がん患者の長期フォローアップと移行期医療～現状と今後の課題～」
北海道大学病院 小児科 医師 寺下 友佳代
14:25～14:50 講演②
「小児がん経験者(CCS)における内分泌併存症について」
北海道大学病院 小児科 診療講師 中村 明佳
14:50～15:15
「血液腫瘍患者の移行期医療 ～受け手側から考える～」
北海道大学病院 血液内科 助教 鹿 隆英
15:15～15:25 休憩
第二部 ディスカッション
15:25～15:55
「北海道における移行期医療の現状と課題について話し合う」
札幌医科大学 血液内科 講師 井山 尚
札幌医科大学 小児科 講師 山本 海樹
北海道大学病院 血液内科 講師 輪 幸子
北海道大学病院 小児科 診療講師 中村 明佳
北海道大学病院 小児科 診療講師 小川 健良 寺下 友佳代
北海道大学病院 血液内科 助教 鹿 隆英

15:55～16:00 クロージング | 北海道大学病院 小児科 教授 眞部 淳

第14回 北海道大学病院 小児がん拠点病院研修会
小児血液・がんセミナー in 北海道 2022

今回のセミナーでは、小児・思春期・若年（AYA）世代の最新トピックと最新アップデート、さらに、小児血液・がん疾患の最新動向および研究について議論を共創し、より良い学びの場として提供できればと考え、開催目的としました。
研修後患者の診療を行っている行っていないに問わず、血液診療に携わって臨床医および研修の方、研修医等に賛同のある方、小児・AYAがん診療に関わる方、研修のご参加をお待ちしています。

日程 | 2023. 2/4 (土) | 定員 | 150名程度
時間 | 14:00～17:00 (開場13:50)
[対象者] 小児・AYAがん診療に関わる方
研修医、実習生、研修学生
[申込] 必ず事前申し込みが必要で
定員超過URLもしくはお電話
によるお申し込みください
[締め切り] 2023/2/4 (土) 当日正午
[参加費] 無料

開催方法 | ハイブリッド形式
会場 | TKPL礼拝堂

小児血液・がんセミナー
北海道大学病院 小児がんセンター 2022

14:00～14:05 オープニング | 北海道大学病院 小児科 教授 眞部 淳
第一部
14:05～14:20 一般演題「当院における小児がん患者の内分泌学的フォローアップ」
14:20～15:25 教育講演①
「小児がん経験者(CCS)における内分泌併存症について」
北海道大学病院 小児科 診療講師 中村 明佳
15:25～15:35 休憩
15:35～15:50 一般演題「北海道における小児がん診療の現状と課題」
15:50～16:55 教育講演②
「小児がん経験者(CCS)における内分泌併存症について」
九州大学大学院医学研究院 臨床遺伝学 教授 大貫 正一 先生
16:55～17:00 クロージング | 北海道大学病院 小児科 教授 眞部 淳

がんプロ共催 腫瘍センターセミナー 2022年度 第1回

・小児がん診療の特殊性
小児科 長 祐子
・小児の薬物動態学とTDM
薬剤部 山口 敦史
・病気が子どもに与える影響と
チャイルドライフ・心理発達支援
スペシャリスト 直正 唯
司会 小児・AYA世代がんセンター長 眞部 淳

開催日時 | 2022年6月23日(木) 17:30～18:30
※Web開催となります。

お問い合わせ 医療支援課地域医療連携係
E-mail: rikuj@jmu.hokudai.ac.jp 内線: 5629

北海道大学病院の取り組み(2022年度)(2)

2. 小児がん拠点病院ネットワーク事業

- ・第7回 北海道地域小児がん医療提供体制協議会
- ・北海道の各地域中核病院での研修会、勉強会

3. 小児がん相談支援事業

- ・第6回 北海道地域
小児がん相談支援部会
- ・第1回相談支援部会研修会(東北ブロック合同)
- ・市民公開講座

第1回 北海道・東北ブロック小児がん拠点病院 小児がん相談支援研修
明日から実践できるきょうだい支援
 2022年 **9月24日(土)**
 13:30~16:30 WEB (Zoom) 開催
 参加無料 事前申込制
 明日の子どものよきお兄さん・お姉さんになることを一緒に考えてみませんか?
 【研修者】
 医師・看護師、福祉・教育関係者、支援団体など
 相談支援やきょうだい支援に関わる職種の方、
 小児がん患者家族に関する職種のない方の
 参加もお待ちしております。
 定員40名(先着順)
 ◆講演
 1 きょうだい支援の必要性と基礎知識
 2 きょうだい支援の実践
 3 北海道大学病院におけるきょうだい支援の取り組み
 ◆グループワーク
 円施設で取り組めるきょうだい支援を考える
 【申込先】
 下記URLから申込コードにアクセスし、申込フォームに必要事項を入力の上、申込みください。
 https://forms.gle/23mKRF8CH7YU6
 【申込先】
 小児がん【ホ】 納付
 北海道大学病院 小児がん相談支援部 相談支援課
 TEL: 011-796-3609
 mail: g04@gm.hokudai.ac.jp
 主催：北海道大学病院、東北大学病院

北海道大学病院 腫瘍センター
市民公開講座
緩和医療と在宅医療
 申込不要
 令和5年 **3月21日(火)** 入場無料
 14:00~18:30(会場13:00)
 北海道大学 学術交流館
 2階講堂(札幌市中央区南一条西7丁目)
 ◆ 司会挨拶
 北海道大学病院 腫瘍センター 部長 杉本 隆
 北海道大学 学術センター 部長 岸 洋
 ◆ 講演
 1 「子どもにとっての緩和ケア」 長 新子
 2 「知っていますか(在宅医療)」 安藤 孝子
 3 「癌の最人にとって良いお薬(緩和ケア)」 藤野 文
 4 「小児在宅医療における将来観とグリーフ」 上島 智幸
 北海道大学病院 腫瘍センター がん相談支援部
 〒060-0814 札幌市中央区南一条西7丁目1-1
 TEL: 011-796-3609 FAX: 011-796-3608
 E-MAIL: g04@gm.hokudai.ac.jp
 主催：北海道大学病院 腫瘍センター

北海道大学病院の取り組み(2022年度)(3)

4. キャンサーボード・多職種カンファレンス

- ・血液腫瘍ボード：(定期週1回/必要に応じ臨時開催)
- ・小児・AYA固形腫瘍ボード：小児科/外科系関係科/放射線治療科/病理/AYA世代症例担当科
(定期月1回/必要に応じ臨時開催)
- ・脳腫瘍/陽子線ボード：小児科/脳外科/放射線治療科(定期週1回/必要に応じ臨時開催)
- ・小児固形腫瘍ボード：小児科/小児外科(定期週1回/必要に応じ臨時開催)
- ・移植ボード：小児科/血液内科/歯科/薬剤科/栄養科(移植計画ごと開催)
- ・長期フォローアップボード：小児がん専門医/小児内分泌専門医(定期月1回)
- ・移行期医療ボード：小児がん専門医/小児内分泌専門医/血液内科/内分泌内科(年2回)
- ・多職種カンファレンス：小児科医/小児病棟看護師/病棟薬剤師/CLS/病棟保育士/
児童精神科医/理学療法士/地域連携係(定期週1回)



北海道大学病院の取り組み(2022年度)(4)

5. 患者・家族支援

・がん相談室
小児がん専任のMSW

・ピアサポート

小児がん家族サロン「ゆるり」
(コロナ禍により停止中)

がんサロン「なないろ」(コロナ禍により停止中)

入院中の子どもと家族のための茶話会

(患者会による活動 コロナ禍により停止中)

・教育支援

分校連絡会議(月1回定期開催)

復学支援会議(退院患者ごと開催)

・北海道子どもホスピスプロジェクトとの連携

施設外での家族支援・兄弟支援イベントの開催

ホスピス・小児緩和ケアに関する研修会開催

仮施設の運用開始

令和4年度10月オープン

北海道子どもホスピスプロジェクト

くまさんのおうち

くまさんのおうちについて

北海道大学病院から車で10分程度の圏央地区に、3LDKのマンションをお借りし仮施設をオープンさせて頂くことになりました。(令和4年度10月)このマンションは支援者の方から無償で利用させて頂くものです。当園は、協力関係にあります北海道大学病院に入院していることも、その家族のみの利用とし、様々な職種が揃った段階において、少しずつ受け入れ先の病院を増やしていくことを目指しております。

こんなことができます

ただただお家で リラックス	家族みんなで たご焼きパーティー	お天気のいい日は バルコニーで日向ぼっこ	親子でのんびり お泊まり会
------------------	---------------------	-------------------------	------------------

利用できる方

本施設は、生命にかかわる病状や状況
(Life threatening conditions: LTC) によって治療や
療養中心の生活を必要とするご家族を対象として
います。当園は、協力関係にあります北海道大学病院に
入院していることもその対象となります。

利用の申し込み

1)下記にある二次元バーコードより仮予約申し込み
フォームよりお申し込みください。
2)いただいた情報を元に事務局が確認させて頂き
させていただきます。
3)事務局からの案内に従って診察を受け直し、ご利用
スタートとなります。



北海道子どもホスピスプロジェクトについて

病室と共に生きることもそのご家族が病院と自宅以外の居場所として、安心して立ち寄り、遊びや学びを通して、子どもとしての時間を十分に持つことのできる育ちの場。また、家族にとっても安らぎの場となるような環境です。子どもホスピスの働きは日本ではまだまだ始まったばかりで、現在日本には大阪(TURIMI)子どもホスピス、横浜(横浜子どもホスピス)の2箇所しかありません。そんな心の拠り所としての「子どもホスピス」を、この北海道に設立することを目指し活動しています。

北海道大学病院の取り組み(2022年度)(5)

6. AYA世代支援チーム(発足は2018年)

医師(内科(3)、外科(3)、小児科、婦人科、耳鼻科、脳神経外科、精神科、放射線科、泌尿器科、口腔外科、緩和ケアチーム)、看護師(がん診療(2)、緩和チーム、小児診療)、薬剤師(成人、小児)、社会福祉士(成人、小児)、チャイルドライフスペシャリスト

- ・妊孕生温存WG設置。院内ガイドラインの見直し。
- ・小児がんサバイバーだけでなく、AYA患者の長期フォローアップ体制も構築。
- ・既存の小児がんキャンサーボードを利用し、希少なAYA世代の症例提示・討論。
- ・『高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業』の協力病院登録。各科周知。
- ・小児慢性特定疾病の医療費助成につき各科情報共有。
- ・医療費助成や就労支援等、経済的サポートに関するAYA世代に特化した相談窓口の明確化と周知。

(がん相談支援リーフレットの活用)

- ・ハローワーク職員の来院による「出張ハローワーク」(就労支援ナビゲーター)
- ・AYA世代に関する研修会開催。
- ・AYA世代のためのサロン「なないろ」
- ・図書コーナー(がんに関する図書、ウィッグの見本、患者会や市民公開講座などのお知らせ掲示)

北海道大学病院の取り組み(2022年度)(6)

7. 小児緩和ケアチームの稼働

- ・多職種での定期カンファレンス(週1回定期開催)によるスクリーニング
- ・病院緩和ケアチームに小児科医を専任で配置
- ・小児支持療法・小児緩和療法、看護、チャイルドライフ、病棟保育、医療福祉などに関する勉強会を開催(年数回)
- ・小児緩和療法に関する啓蒙と在宅医療の早期紹介のためのパンフレット作成(入院患者全例配布)
- ・グリーフカード、小児用ペインスケールの作成・運用



8. 新規治療への取り組み

- ・国内外の多施設共同臨床研究ならびに治験への積極的な参加の継続
- ・陽子線治療
- ・小児再発難治性ALLに対するCAR-T療法の継続

9. がんパネルへの小児がんの適用とgermline遺伝子変異解析

- ・小児がん症例の積極的な導入
- ・がん遺伝子診療部への小児科医専従配置、エキスパートパネルへの小児科医参加
- ・遺伝性腫瘍外来開設と臨床遺伝子診療部との連携(遺伝カウンセリングの充実)

2023年度小児がん拠点病院事業計画(北海道大学病院)

1. 小児がん医療従事者研修事業

- ・小児がん医療者研修会(造血幹細胞移植推進事業と共同あり)定期開催継続
- ・北海道大学病院 腫瘍センターセミナー(小児がん関連のテーマを複数回採択継続)
- ・北海道内小児がん診療施設医療従事者3大学定期勉強会継続(webを利用した勉強会)

2. 小児がん拠点病院ネットワーク事業

- ・第7回北海道地域小児がん医療提供体制協議会(自治体関係者も参加)
- ・北海道の各地域中核病院への医師派遣継続

3. がん相談支援事業

- ・第7回北海道地域小児がん相談支援部会
- ・第8回市民公開講座
- ・小児がん専門相談員研修および小児がん専門相談員継続研修継続
- ・小児がん拠点病院協議会相談支援部会(都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会と合同)

4. キャンサーボード

- ・血液腫瘍/小児・AYA固形腫瘍/脳腫瘍・陽子線/小児固形腫瘍/移植カンファレンス/多職種カンファレンスの**継続**
- ・メンタルサポート強化のため小児がん専門医と児童精神科・心理士による定期カンファレンスを別途設置し**開始**
- ・成人領域(血液内科・腫瘍内科・内分泌内科ほか)との移行期連携カンファレンスの**継続**
- ・長期フォローアップ事業の強化として小児がん専門医と小児内分泌や循環器、腎臓専門医との勉強会や連携カンファレンスの**継続**

5. 患者・家族支援

- ・院内学級との連携**継続**、分校・病棟連絡会の**継続**
- ・webを活用した病室での**学習拡充**
- ・退院時の復園及び復学支援の**継続**
- ・妊孕性温存に関する相談窓口と専門施設紹介システムの**安定化**
- ・心の悩みや体験等を語り合うための場所及びその**機会の維持**
- ・小児・AYAがん家族サロン「ゆるり」「なないろ」**継続**(対面での開催再開を模索)
- ・入院中の子どもと家族のための茶話会**継続**(コロナ禍のため中断中)
- ・患者間/患者家族間のピアサポート**企画**
- ・サバイバーキャンプなど同窓会のような**企画**
- ・患者会との連携**強化**
- ・宿泊、レスパイト施設の確保(北海道子どもホスピスプロジェクトとの連携**継続**)
- ・病棟free WiFi**導入**

6. AYA世代支援

- ・患者の発育及び教育等に関して必要な環境の整備
北海道庁・北海道教育委員会との連携による遠隔システムによる入院患者における
高等学校教育の保障の**院内周知と拡充**
- ・分校・病棟連絡会の**継続**
- ・退院時の復園及び復学支援の**継続**
- ・ピアサポートの体制に関しては、院内は不十分であり今後の課題。

7. 小児緩和ケアチーム

- ・日常診療における実践と経験の蓄積
(成人緩和ケアチームへの小児科医専任配置**継続**と、小児科病棟内定期回診**開始**)
- ・スタッフのレベルアップのための勉強会(多職種の講師を招聘)の**継続**
- ・小児サポートチームパンフレット、グリーフカード、ペインスケールの運用**開始**(一部開始済み)
- ・地域連携係との協働によるスムーズな在宅療養への移行**拡充**

8. 新規治療への取り組み

- ・多施設共同臨床研究・治験への積極的参加
- ・陽子線治療の**拡充**
- ・CAR-T療法の**拡充**
- ・オンコパネルを活用したテーラーメイド治療の**推進・継続**
- ・遺伝性腫瘍外来の**継続**
- ・小児がんに関連した新規治療薬の承認を目指した患者申し出療養(受け皿試験)**開始**

2023年度計画表【北海道ブロック】

名称	区分	予定者数	開催日	開催方法	備考
小児がん医療提供体制協議会(第8回)	協議会	50	2023年秋予定	オンライン	小児がん拠点病院ネットワーク事業
相談支援部会(第7回)	部会	10	2023年秋予定	オンライン	小児がん拠点病院ネットワーク事業
小児がん診療連携病院看護部門会議	部会	5~10	隔月/6回	オンライン	小児がん拠点病院ネットワーク事業
第16回小児がん医療者研修(造血幹細胞移植推進事業と共同) 『妊孕性温存(仮)』	研修会	100	2023/12/2	集合	小児がん医療従事者研修事業
第15回小児がん医療者研修 『小児造血細胞移植のキーポイント』	研修会	50	2023/7/15	集合	小児がん医療従事者研修事業
腫瘍センターセミナー 『小児の造血器腫瘍と遺伝子』ほか	研修会	50	2023/6/22 ほか 年度内に数回開催予定	オンライン	小児がん医療従事者研修事業
市民公開講座 内容未定	研修会	80	2023年秋予定(集合)	集合	がん相談支援事業、小児がん医療従事者研修事業
小児がん家族サロン「ゆるり」	その他	10	今年度再開予定 企画検討中	集合	その他
入院中の子どもと家族のための茶話会	その他	30	コロナ禍のため中断中	集合	夏祭り・クリスマス会は実施予定
家族会との交流会	その他	10~15	隔月/6回	集合	その他
分校・病棟連絡会	その他	10	月1回第一金曜日/12回	集合	その他
復学支援会議	その他	10	不定期/5回程度	オンライン	その他

第18回小児がん拠点病院連絡協議会

昨年度の事業報告と今年度の事業計画について

東北ブロック

小児がん拠点病院：東北大学病院

令和5年6月28日

小児がん拠点病院としての
東北大学病院内の取組み

東北大学病院の中核・拠点病院指定

がん診療連携拠点病院
＞東北大学病院がんセンター

小児がん拠点病院
＞小児腫瘍センター

造血細胞移植拠点病院
＞造血幹細胞移植支援センター

がんゲノム医療中核病院
＞個別化医療センター

臨床研究中核病院
＞臨床研究推進センター

東北大学病院内における小児がん診療体制

1. 東北大学病院がんセンター内にく小児腫瘍センターを組織化した。

2. 入院環境の整備
病棟内セミクリーン域(個室6床)
の設置とプレイルーム増設(右写真)



3. 医療安全対策の強化
医療安全推進室との連携強化

4. 臨床試験、がんゲノム医療の推進
臨床研究中核病院として、臨床研究推進センターの支援による臨床試験の実施
がんゲノム医療中核病院として、個別化医療センターによるがんゲノム医療の提供

5. AYA世代への支援体制の強化
AYA相談室の新設
AYAルームの整備
高校生への学習支援(医学部生ボランティアサークル支援)
県教育庁との連携による遠隔授業体制の構築と運営
宮城県がん生殖医療ネットワークによる生殖医療の情報提供

6. 脳脊髄腫瘍の診療体制の強化

脳神経外科と小児科の定期的なカンファレンス

7. 長期フォローアップ外来、移植後フォローアップ外来の充実

週2回の長期フォローアップ外来体制

医師、専属看護師、臨床心理士による月4回の移植後フォローアップ外来

8. 多職種スタッフによる小児がん総合カンファレンス

医師、看護師、臨床心理士、CLS、MSW、院内学級教師、保育士による

週1回の定期開催

9. 緩和ケアチームとの連携強化

東北大学病院がんセンター内での連携体制による、早い段階からの介入

10. 遠隔医療設備の充実

宮城県立子ども病院・弘前大小児科との、WEBカンファレンスを継続。

東北地区小児がん連携病院8施設との、WEBカンファレンスを継続。

11. 小児腫瘍センターホームページ、小児がん相談室・AYA相談室の開設

小児腫瘍センターHPを更新し情報公開を行っている。

小児がん相談室・AYA相談室において、各種相談受付を行っている。

個別化医療センター

バイオバンクの取り組みについて

患者ご本人に血液などの生体試料を提供していただき、適切な管理・保管のもと、病気の診断のための研究や、患者さんご自身の治療の選択に活用していくことを目的としています。

患者さん
↓
医師・病棟の医師
↓
バイオバンクで管理
↓
よりよい治療の提案

提供している生体試料や診療情報は、病気の新たな原因を明らかにする研究や新しい治療法の開発をはじめとする医学の進歩の為に活用されます。

さらに、提供いただいた生体試料を基に、新しい種類の治療薬の開発につながる重要な研究が期待されています。専門医やチームの協力を得て、その情報を患者さんに適切に提供させていただきます。

【必ずお読みください】

生体試料の提供は、患者さんご自身の意思で行われます。提供した生体試料は、研究や診断のためにのみ使用され、第三者に提供されることはありません。また、提供した生体試料は、必ずしも治療に活用されるものではありません。

Q & A

自分の病気で検査を受ける必要がありますか？
検査は任意です。ご家族の方やご友人の方、協力生体中や知り合いの方でも、今後の治療に役立てていただくことも可能です。

手術を途中で断念したくなったら？
その際、医師と相談しながら、適切な処置を行います。また、病状が進行している場合は、その患者さんの状態に合わせた治療を行うことができます。

個人情報は守られますか？
個人情報は厳格に管理されています。

費用はかかるのでしょうか？
一切かかりません。バイオバンクにご登録していただくことにより、よりよい治療の提案をさせていただきます。

お問い合わせ窓口
東北大学病院
個別化医療センター・バイオバンク部門
〒980-8575 仙台市青葉区宮城4-1
診療時間：月～金 9:00～17:00
TEL.022-717-8480

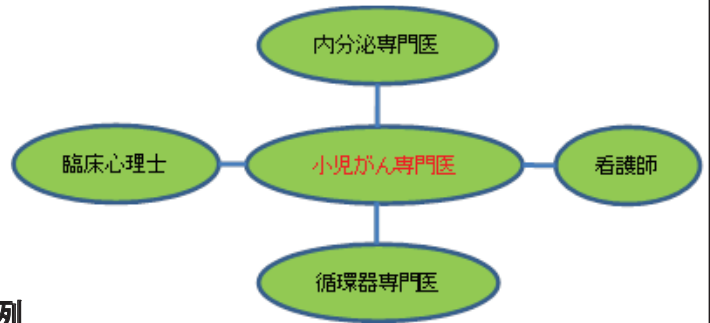
みんなの健康のための新しい医療。
登録しよう! バイオバンク
様々な病気の新しい治療法を開発するために、患者さんの血液などの生体試料や診療情報などのご提供をお願いします。

バイオバンクの設立
個別化がんゲノム解析の推進
個別化治療・分子標的薬の提案
将来のがん医療への貢献

長期フォローアップ外来、移植後フォローアップ外来

長期フォローアップ外来

- ・月曜日、金曜日午後開設。
- ・内分泌専門医、循環器専門医、看護師、臨床心理士と連携して診療を行う。
- ・宮城県がん生殖医療ネットワークを設立。



小児がん専門医:2名

外来患者数:

治療終了後5年以上経過 月10-20例

移植フォローアップ外来

- ・第2、第3週の月曜日、金曜日に開設。
- ・内分泌専門医、循環器専門医、看護師、臨床心理士、MSWと連携して診療を行う。
- ・月初めに小児がん専門医と上記担当者が事前にカンファレンスを行う。
- ・問診票の作成、記録。

小児がん専門医:2名

外来患者数:月20例前後

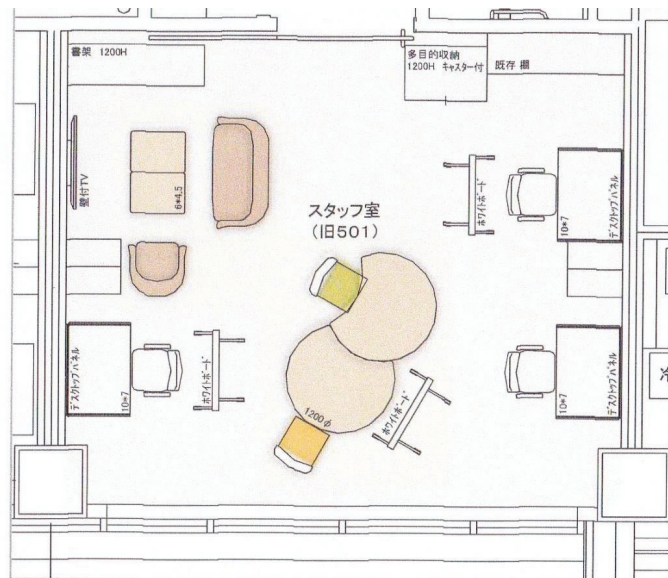
カンファ(月1回、金曜日)

- ・次回外来患者のFU内容の確認
- ・外来受診患者の申し送り

外来

- ・専門Nrs.による指導
- ・診察
- ・問診票による問診、記録

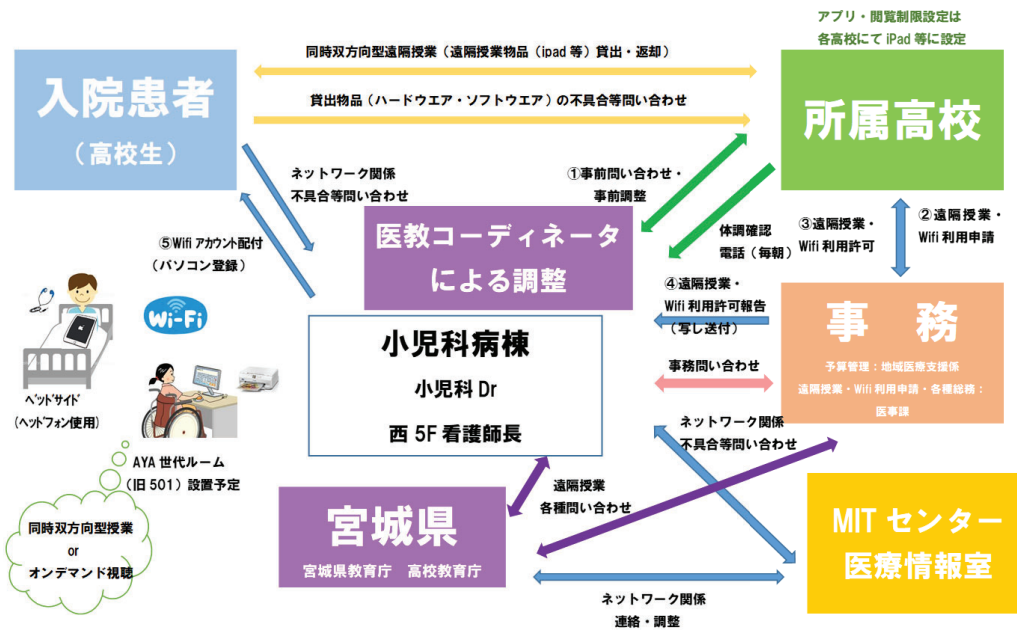
AYAルームの整備 ～AYA世代への対応～



復学支援のための学習スペース
学習環境の整備
原籍高からの遠隔授業
同世代間の語らいの場所

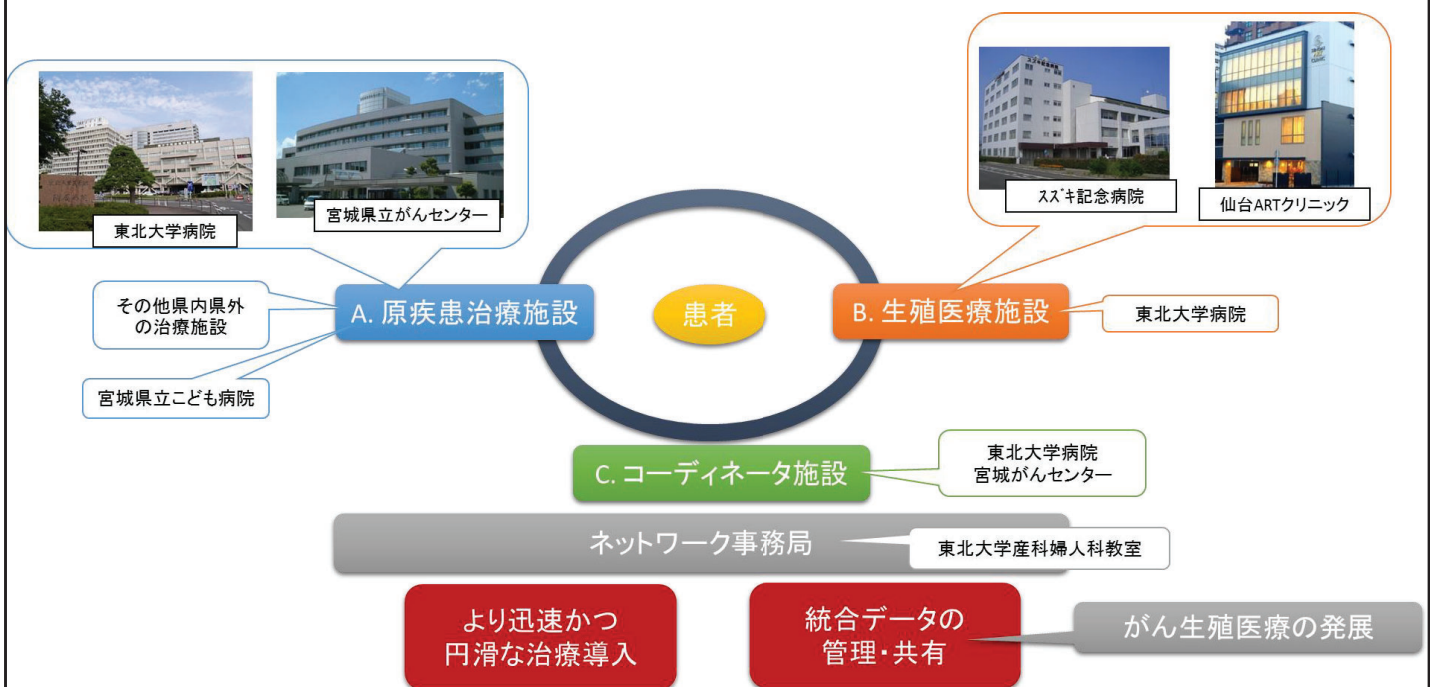
高校生の復学支援に向けた教育行政との連携 ～AYA世代への対応～

高校生の遠隔授業における連絡体制



**医教コーディネータの配置
=各県で同等の制度整備を進めている**

宮城県がん生殖医療ネットワーク ～AYA世代への対応～



AYA相談室の新設 ～AYA世代への対応～



小児がん相談室、成人がん診療相談室に加えて、新たに<AYAがん相談窓口>を設立した。

小児腫瘍センター ホームページ

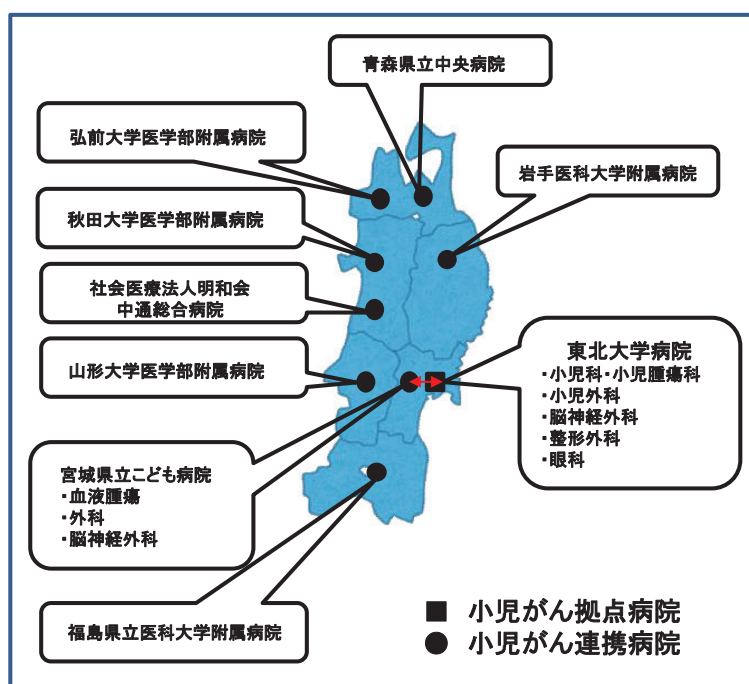
<https://www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp/>

ご家族向けの小児がんの
包括的なサポートハンドブック
の作成



小児がん拠点病院における 東北ブロックとしての取組み

東北ブロック小児がん医療提供体制協議会の運営



小児がん拠点病院(1施設)
・東北大学病院

小児がん連携病院(8施設)
・弘前大学医学部附属病院
・青森県立中央病院
・秋田大学医学部附属病院
・秋田中通総合病院
・岩手医科大学附属病院
・山形大学医学部附属病院
・宮城県立こども病院
・福島県立医科大学附属病院

東北ブロックで小児がん拠点病院に集約すべき対象疾患

- 1) 再発あるいは難治性症例（新規治療治験対象症例も含む）
- 2) 高度の手術手技と集学的治療を要する脳腫瘍症例
- 3) 原発性免疫不全症を基礎疾患とした特殊な病態を伴う症例



均てん化と集約化のバランス

拠点病院での
病床数の制限

遠隔医療
病院間の連携強化

連携病院の
診療体制の強化

CAR-T細胞療法症例の積極的な受け入れ

造血幹細胞移植後 ワクチン再接種費用補助事業



仙台市は2019年4月に
助成制度を設置

宮城県内では13市町村^{*}
が助成制度を設置
(宮城県の補助支援あり)

東北ブロック各県でも
自治体単位の設置が
進んでいる

昨年度の研修集会開催実績

1. 東北ブロック小児がん連携病院合同WEBカンファレンス
第18回 2022年10月21日(金)
第19回 2023年1月20日(金)
2. 東北ブロック小児がん相談支援部会講演会
2022年度第1回 2022年7月22日(金)
2022年度第2回 2023年2月8日(水)
3. 主催セミナー
妊孕性に関するセミナー 2022年7月30日(土)
復学支援に関する特別講演会 2022年10月21日(金)
北海道・東北ブロック小児がん相談支援合同研修会
2022年9月24日(土)
LCAS主催 2022年12月17日(土)

今年度の研修集会開催予定

1. 東北ブロック小児がん連携病院合同WEBカンファレンス
第20回 2023年7月28日(金)
第21回 2023年10月27日(金)
第22回 2024年1月26日(金)
2. 東北ブロック小児がん相談支援部会講演会
2023年度第1回 2023年7月19日(水)
2023年度第2回 2023年12月頃を予定
3. 主催セミナー
北海道・東北ブロック合同小児がん相談支援合同研修会
2023年9月16日(土)

2023年6月28日
第18回 小児がん拠点病院連絡協議会

関東甲信越ブロックの取り組み



血液・腫瘍科 康 勝好



血液・腫瘍科 湯坐有希



血液・腫瘍科 柳町昌克



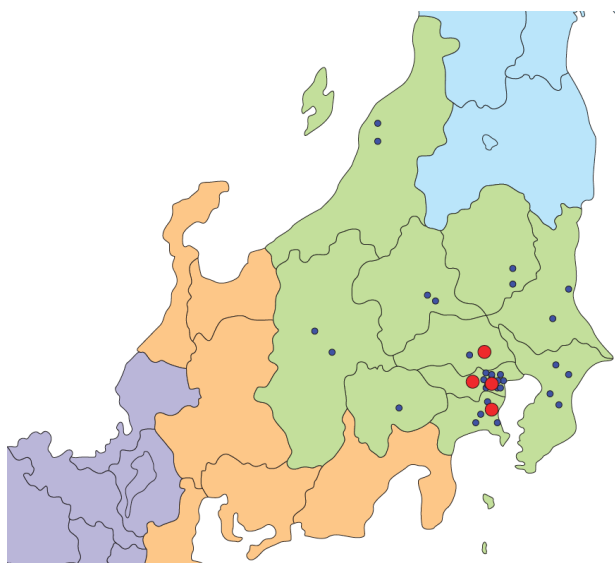
小児がんセンター 松本公一

1

関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会

日本小児血液・がん学会の日本小児血液・がん専門医研修施設を基準とし、
厚労省が指定した類型を考慮して、

45医療機関を小児がん連携病院に選定した。



<協議会構成員>

医療機関 46
行政機関 10
オブザーバー 1
(2023年4月現在)

<行政機関>

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、
千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、
長野県、新潟県

<オブザーバー>

公益財団法人 がんの子どもを守る会

年間約1200例*の新規発症

*1197例 (情報公開資料2019年による)

2

各拠点病院の取り組み



3



小児がん中央機関/小児がん拠点病院

4



非悪性疾患の造血細胞移植のTIPS

- 開催日時：2022年11月4日（金） 18:30～20:15
 - 開催形式：オンライン開催 (Zoom webinar)
 - 対象：小児の造血細胞移植に携わる医師・看護師・薬剤師・コメディカルなど
 - ねらい：小児の非悪性疾患に対する造血細胞移植における臨床上の工夫など、各疾患のエキスパート施設の経験知識を共有する
 - 申し込みフォーム：<https://forms.gle/enRUUn3WTeVQvZepk9>
 - 申し込み締め切り日：2022年10月28日（金）
- ※ 申し込みいただいた方
後日参加用のURLをお送りします。



18:30-18:35	Opening remarks
18:35-19:00	造血不全症の移植 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 小児医療センター血液腫瘍科 吉田 奈央 先生
19:00-19:25	先天性代謝疾患の移植 国立研究開発法人国立成育医療研究センター 小児がんセンター移植・細胞治療科 坂口 大俊 先生
19:25-19:50	免疫不全症の移植 聖路加国際病院 小児科 宮本 智史 先生
19:50-20:10	パネルディスカッション
20:10-20:15	Perspectives

問い合わせ先：国立成育医療研究センター 小児がんセンター
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1
電話：03-3416-0181(代表)
E-mail：kkshounigan@ncchd.go.jp



緩和ケアレクチャーを開催しています

第36回	2022/5/20	小児緩和ケアにおける学校との連携 ～子どもの姿と子どもの権利～	昭和大学大学院 保健医療学研究科准教授 同大学付属病院内学級担当	副島賢和先生
第37回	2022/9/2	こどもの精神症状について考える	国立成育医療研究センター 緩和ケア科診療部長	余谷暢之先生
第38回	2023/1/13	救急・集中治療における意思決定を支える 「救急ACP～救急・集中治療の現場での意思決定支援～」	帝京大学医学部附属病院 高度救命救急センター	伊藤 香先生
第39回	2023/3/10	緩和ケアチームと主担当チームの 協働について考える 「三重大学医学部附属病院での小児緩和ケアの取り組み ～こどもと家族の緩和ケアニーズにシームレスに対応するために～」	三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 小児科 小児・AYAがんトータルケアセンター	松原貴子先生 森本真理先生 河俣あゆみ看護師

第10回

せいいく ケアカフェ

Seiiku Care Café@



カフェでのおしゃべりのようなオープンで自由な会話を通して、
こどもの緩和ケアについて話し合ってみませんか？
今回もZoomを使ったWebによるケアカフェを実施します。
今回からはこどもの緩和ケアにまつわるテーマについて
普段の関わりの中での疑問をみんなで話し合おうというコンセプトで行います。
Web開催なので、普段会えない遠方の方と繋がるチャンスです！

日時 2022年10月7日 18:30-19:40

※当日は18:00～18:20の間にログインをお願いします
※18:40を過ぎるとログインできなくなりますのでご注意ください

重症児のこどものケアに関わる職種の方はどなたでも参加できます。
(医療職、介護職、福祉職、行政、学校の先生など)

【テーマ】こどもの心理社会的課題について考える



病気を抱えて生活することもまたは、身体の症状だけでなく心理社会的課題を抱えていることが少なくありません。こどもの心理社会的課題に対してどのような支援ができるのか、医療関係者だけでなく多くの方々と考える機会になればと思います。是非ご参加ください。



緩和ケアレクチャーの後に、
同じテーマでディスカッションする場として、
「せいいくケアカフェ」を開催

今年も開催します



小児がん看護セミナー

2022年度 国立成育医療研究センター主催 小児がん拠点病院 医療者育成事業
◆新型コロナウイルスの感染拡大を予防するため本研修はWEB開催です◆

テーマ	講師	時間
小児がん対策、疫学、最新の動向	小児がんセンター センター長 松本 公一	10分
小児がんの代表的疾患と治療（血液腫瘍）	小児がんセンター血液腫瘍科 診療部長 富澤 大輔	30分
小児がんの代表的疾患と治療（固形腫瘍）	小児がんセンター センター長 松本 公一	30分
小児がんの代表的疾患と治療（脳腫瘍）	小児がんセンター 脳神経腫瘍科 診療部長 寺島 慶太	30分
小児がん看護概論	小児看護専門看護師 後藤 清香	20分
小児がん治療で使用する薬剤	小児薬物療法認定薬剤師 歌野 智之	30分
小児がんにおける化学療法と症状マネジメント	がん化学療法看護認定看護師 鋸持 瞳	20分
7月19日 8月12日		
終末期の小児がん患者の緩和ケア	小児がんセンター がん緩和ケア科 診療部長 余谷 暢之	30分
12月1日 23日		
終末期の小児がん患者への看護	緩和ケア認定看護師 會田 麻里江	20分
小児がん患者のプレパレーション	チャイルド・ライフ・スペシャリスト 伊藤 麻衣	20分
小児がん患者の晩期合併症について	小児がんセンター 医師 清谷 知賀子	30分
小児がん患者の長期フォローアップについて	小児看護専門看護師 柴田 映子	20分

- ◆研修は無料です。講師や研修内容は予告なしに変更することがあります。ご了承ください。
- ◆下記のアドレスかQRコードにアクセスし、必要事項をご入力の上、**6月30日(木)**までにお申し込み下さい。
<https://forms.gle/p7tnx1MYpJA8Uv9F6>
- ◆研修約1週間前に参加概要をメールにて送信させていただきます。



小児がん看護経験
1～3年目が対象です。

国立研究開発法人国立成育医療研究センター
小児がん看護センター(担当:丸山京美・重沼とみ)
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1
電話03-3416-0181 (代表)
E-mail: shounigankango@ncchd.go.jp

厚生労働省委託事業

小児・AYA世代のがんの
長期フォローアップ体制整備事業



Lifetime Care and Support for Child, Adolescent and Young Adult Cancer Survivors

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
The Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology

LCASのサポートと、
アドバンス研修の開催を行っています

LCAS 2022年度開催概要

- 第1回 2022年 **07月03日** (日) 09:30~16:00(予定)
主幹: 兵庫県立こども病院
- 第2回 2022年 **08月20日** (土) 09:30~16:00(予定)
主幹: 静岡県立こども病院
- 第3回 2022年 **12月17日** (土) 09:30~16:00(予定)
主幹: 東北大学病院
- 第4回 2023年 **02月18日** (土) 09:30~16:00(予定)
主幹: 埼玉県立小児医療センター



LCASアドバンス 2023年3月12日
主催: 国立成育医療研究センター

小児がん患者家族向けイベント 「交流フェスタ」を2月に開催しています



小児がんWEB交流フェスタ 2023 講演会

2023年 2月 26日 (日) 14:00 - 15:30
(LIVE配信、後日録画配信あり)

対象者 小児がんの患者さん・ご家族、医療関係者
その他、患者会・家族会・NPO等の団体や小児がんにご関心がある方

国立成育医療研究センターよりWEBで配信いたします。講演会の前後に様々な患者会や支援団体のご紹介を予定しております。
視聴をご希望の方は、QRコードやURLから申し込みフォームにてお申し込み下さい。

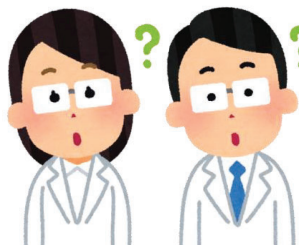
<https://forms.gle/kfVEAJpt59h4jtJ39>

申し込み締切日: 2023年2月22日 (水)



講演内容

- 『当院の小児がんセンター・相談支援センターの紹介』
国立成育医療研究センター
小児がんセンター長 松本 公一
小児がん相談支援センター ソーシャルワーカー 鈴木 彩
- 『神経芽腫に対する抗GD2抗体療法(仮題)』
国立成育医療研究センター
小児がんセンター 血液腫瘍科 山田 悠司
- 『当院におけるファシリテッドッグの活動』
国立成育医療研究センター
ファシリテッドッグ・ハンドラー/小児看護専門看護師 権守 礼美



主催: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター
小児がんセンター 小児がん相談支援センター
問い合わせ先: 国立成育医療研究センター 小児がんセンター (担当: 佐々木)
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1
電話: 03-3416-0181 (病院代表) E-mail: kkseshounigon@ncchd.go.jp

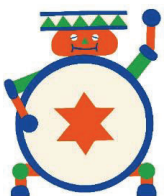




埼玉県立 小児医療センター

Saitama Children's Medical Center

9



埼玉県立小児医療センターの取り組み：
小児がん相談支援センター
患者・家族セミナー（web開催）



第1回

- テーマ：神経芽腫の新しい治療「抗GD2療法」を学ぼう！
- 日時：令和4年12月17日（土）
14:00～15:00
- 開催方法：WEB開催
- 講師：本田護（埼玉県立小児医療センター血液・腫瘍科）
- 参加者：25組
- アンケートから

・ご家族や患者様対象ということで、わかりやすく、興味深く拝聴しました。
・新しい治療法ということで期待をしてお話を聞きました。お話の内容はととてもわかりやすくてよかったです。治療率が10%向上というのは、期待していたより低く感じました。

第2回

- テーマ：一緒に考えよう いろいろな気持ちとの向き合い方
～AYA世代のあなたとAYA世代を支える方へ～
- 日時：令和5年3月18日（土）
13:30～14:15
- 開催方法：WEB開催
- 講師：矢崎知子（埼玉県立小児医療センター公認心理師）
- 参加者：16組
- アンケートから

・『自分の気持ちに蓋をしない』を子どもにも伝えようと思います
・勉強になりました！気持ちが揺れることは当たり前であり、そこにそっと寄り添う支援をしていけたら良いなと思いました。

令和4年度 埼玉県立小児医療センター 主催

『小児がん看護専門研修』

開催のお知らせ

今年度は「脳腫瘍」と「在宅支援」をテーマに看護研修を実施いたします

ZOOMを用いたオンライン研修

第1回

『脳腫瘍の疾患と治療』
-治療の実際と支援-
令和4年11月8日(火)
17:40~19:00

①脳腫瘍の疾患と治療

講師:埼玉県立小児医療センター
血液・腫瘍科医師
福岡 講平

②脳腫瘍の子どもとその家族の看護 ~在宅支援部門看護師の関わり~

講師:埼玉県立小児医療センター
小児看護専門看護師
近藤美和子

第2回

☆特別講演☆

『がんの子どもとその家族の在宅支援』
-訪問診療とケアの実際-
令和5年1月21日(土)
12:55~16:00

がんの子どもと家族の在宅支援

①医師の立場から
医療法人財団 はるたか会
理事長 前田浩利 先生

②看護師の立場から
医療法人財団 はるたか会
訪問看護ステーションそら
所長 山岸康幸 先生

● 当院の研修の特色

- 2022年度は「脳腫瘍」に関する基礎的な内容と「在宅支援」に焦点をあてたトピックス研修で構成し、2回開催した。
- 全国の小児がん診療拠点病院および関東甲信越地域の小児がん診療連携病院64病院、埼玉県内の訪問看護ステーション90施設に研修案内を送付した。

● 申込人数

	院内	院外
第1回	64名	55名
第2回	22名	57名

Web開催のために、参加人数の詳細が確認できず。

● 受講後アンケートと今後の取り組み

- 内容の理解、実践への応用については、各回共に「よくわかった」「役立つ」が95%以上を占めた。
- WEB開催は、LIVE配信だけでなく、オンデマンドによる配信希望があった。
- 今後も ①疾患と治療、看護の基礎 ②トピックス研修 の2テーマで開催予定。



埼玉県立 小児医療センター
Saitama Children's Medical Center

2022年度埼玉県立小児医療センター/けやき特別支援学校の高校生教育支援実績

		学年	受診科	支援期間	
埼玉県立	普通科	1年	血液・腫瘍科	4か月	全員 卒業・進級
私立	普通科	3年	血液・腫瘍科	7か月	
		3年		6か月	
		1年	3週間		
		2年	感染・免疫科	1か月	
		1年	整形外科	3か月	

支援総数: 6名〔血液・腫瘍科 4名、感染・免疫科 1名、整形外科 1名〕

平均支援期間: 3.7か月

- 特徴: ①例年に比べて年間支援者数が少なかった
②全支援対象校が全日制普通科だった(例年は職業科や定時制、特別支援学校、サポート校の生徒もいる)
③支援にいらなかったケースが1件あった
...当初は5月中に復帰できる予定だったため高校は支援に協力することになっていたが、入院期間が延びて6月末の退院となった時点で留年になると伝えてきた。生徒は入院中に進路変更を決意し、転入試験を受けた。

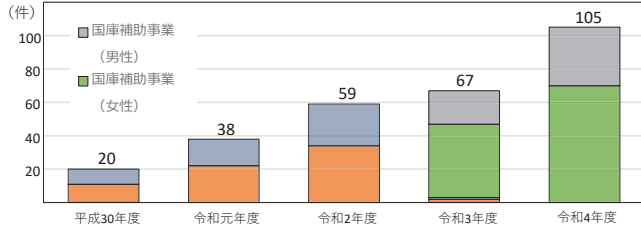
小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業【埼玉県疾病対策課】

妊孕性温存療法の助成

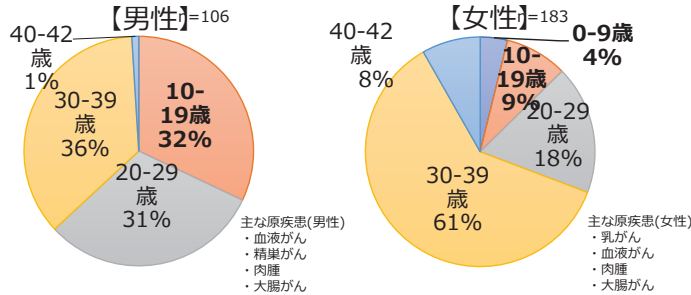
H30.8月 県単独事業（妊孕性温存療法）開始

R3.4月 国庫補助事業（妊孕性温存療法）開始

<延べ助成件数>



<性・年齢別助成割合>



令和4年度妊孕性温存療法研修会

各回 午後7時から8時まで
Zoom開催
無料

小児・AYA世代の妊孕性温存療法 研修会

第1回 男性がん患者・思児妊孕性温存のこれから
11月25日(金) 申込締切 11月24日(木)
国立がん研究センター がん医療推進部 がん治療支援センター 助産 若尾 威之

第2回 妊孕性温存・温存後生殖補助医療に対する心理社会的支援
11月28日(月) 申込締切 11月25日(金)
国立がん研究センター がん医療推進部 がん治療支援センター がん医療専門士 小泉 智恵

第3回 小児・AYA世代の女性がん患者・自己免疫疾患患者等に対する妊孕性温存
11月30日(水) 申込締切 11月28日(月)
一不妊治療の保険適用と新しい公助成制度を踏まえて
埼玉県立小児医療センター 産婦人科 教授 高井 孝

電子申請フォームからお申し込みください
※利用希望者様事前に申し込みはご自身のアカウントにて入力を進めてください

埼玉県立小児医療センター 埼玉県保健医療部疾病対策課

【研修内容】

「男性編」、「女性編」、「心理編」の計3回実施し、妊孕性温存療法の基礎や心理的支援について学ぶ。

【対象者】

がん治療に携わる医師、看護師等の医療従事者

【参加者】

第1回 48名
第2回 58名
第3回 61名

今後の課題

- 希望する全ての方が妊孕性温存療法を受けられる体制の整備
- ・ホームページ等を利用した継続的な情報発信
 - ・がん診療施設、生殖医療施設、行政の連携体制の強化



地方独立行政法人 東京都立病院機構

東京都立小児総合医療センター

Tokyo Metropolitan Children's Medical Center

「AYA世代がん相談情報センター」 やっています

(1) センター概要

AYA世代がんの相談支援に関する情報等を集約し、患者・家族、医療機関関係者への情報提供等を行う。

また、AYA世代のがん患者同士が交流できるイベントを開催するほか、相談員同士の交流の機会を設け、支援の充実を図る。

(2) 設置場所（設置日：令和3年9月3日～）

聖路加国際病院
 東京都立小児総合医療センター

(3) 主な取組

○AYA世代がん経験者を対象とした交流イベント
 「AYA世代がんサバイバーズミーティング」

○AYA世代がん診療の相談支援に関わる
 医療従事者を対象としたセミナー
 「Tokyo AYA Can ネットワーク」

「AYA世代がん相談情報センター」
 を開設します！

思春期・若年成人がん（AYA世代がん※）の相談支援に関する情報等を集約し、患者さまやご家族さま、また医療機関関係者の方へ情報提供等を行うことを目的とした、「AYA世代がん相談情報センター」を都内2か所（区部・多摩部）に令和3年9月3日から設置いたします。ぜひ、ご利用ください。

※AYA世代がんとは…
 思春期・若年成人 (Adolescent and Young Adult) に発症する「がん」のことで、主に15～39歳までに発症するがんを指します。小児期に発症して、現在、AYA世代になっている小児がん経験者も含まれています。

区部	多摩部
【学校法人聖路加国際大学 聖路加国際病院】 住所：〒104-8560 東京都中央区明石町 9-1 電話：03-5550-7098 受付時間：9:00～17:00（土・日・祝日を除く）	【東京都立小児総合医療センター】 住所：〒183-8561 東京都府中市武蔵台 2-8-29 電話：042-312-8191 受付時間：9:00～17:00（土・日・祝日を除く）

センターにおける相談対応内容

AYA世代がん患者さま ご家族さま	(例) 悩み事や不安なことについて、身近に相談できる窓口を知りたい。 ・地域の医療機関でがんについて相談できる窓口を知りたい。など その他、AYA世代がんに関するご質問・ご相談 また、患者さま向けの交流会等も企画していく予定です。
医療機関関係者の方へ	(例) AYA世代がん患者に対する相談支援に関する情報を知りたい。 ・生体機能温存に係る治療について相談できる医療機関はないか。など その他、AYA世代がんに関するご質問・ご相談 また、医療機関関係者の方を対象とした研修会や都内のがん相談支援センターなどの相談員さん同士の交流等の場も企画していく予定です。

AYAキャンサーサバイバーズ ミーティング @都立小児

・参加者：23名

第7回 AYAキャンサーサバイバーズミーティング

AYA世代がん患者のための
 オンライン交流イベント*

AYA世代がん経験者による交流イベントをオンラインで開催！
 今回は、「働き方や食事について「何からはどおして？」」「
 「どこまで気を遣ったら良いの？」など気になる事を、
 専門の先生とみんなでトークしましょう！

2022年 入院中も参加OK!

8月21日

13:00～16:00 日

場所: **Zoom**

対象: AYA世代がん経験者
※15歳～39歳までが対象（本人・ご本人・現在高校生～39歳までの方）

参加費用: 無料【要Web登録】
 申込期限: 2022年8月14日(日)

定員：先着30名

お申し込み方法

QRコードもしくはURLより、登録フォームにアクセスしてください。

iPhone: カメラアプリで読み取る
 Android: Google レンズで読み取る

URL: <https://www.shirei.eig-front.jp/tokyo02/uketakeka/form.do?fid=165693361544>

Contents & Time Schedule

- 13:00 はじめの挨拶と会の主旨説明 (10分)
- 13:10 **第1部** 選べるグループレクチャー (25分×3)
- 🌻 転職・休職・復職どうして？
🌻 みんなの働き方トーク！
 ハロワーク川北 就労支援ナビゲーター 岡田 真 先生 x 🌻 AYAがんサバイバー
- 13:40
🌻 おすすめのコンビニ食は何ですか？
🌻 気になる栄養のことを聞いてみよう！
 埼玉癌がんセンター 栄養部 武井 敬子 先生
- 14:10
 仲間と交流できる場所があるよ
① 録音紹介
 *若年がん患者会 STAND UP !!
 *都立 NPO 法人 マキーズ東京
- 14:50 **第2部** 気になるテーマを連日録そう！
 みんなでティータイムトーク (30分×2計60分)
- 15:30 終わりの挨拶 (10分)

主催：東京都立小児総合医療センター
 共催：東京都立多摩総合医療センター、聖路加国際病院
 企画・事務局：AYA cancer network project (※) 後援：(一社)AYAがんの医療と支援のあり方研究会
 ※若年時がんを経験したサバイバーで結成されたチームで、日本全国の繋がりを目標して活動しています。
 【お問い合わせ】東京都立小児総合医療センター 計画課計画グループ TEL:042-300-5111 (代表)

Tokyo AYA Can ネットワーク

@都立小児（主幹）

- 内容：就学就労支援
- 参加者：121名

@聖路加（主幹）

- 内容：AYA支援チームの作り方
- 参加者：102名（YouTube154回再生）



東京都委託事業 AYA世代がん患者者支援体制構築事業

Tokyo AYA Can ネットワーク
第3回公開ウェビナー

AYA世代がん患者の「（高校・大学等の）就学支援」「就職就労支援」について学び、連携してサポートの輪を広げよう！

2022.7.9 [土] 13:00-15:00
WEB開催 ZOOM ウェビナー (定員 120名程度)

当日の様子を毎日オンデマンド配信予定

参加申込方法
期間：2022年6月3日～2022年6月29日
申込フォームはコチラ
URL: https://www.shoin.jp/form_aya/aya2022



東京都委託事業 AYA世代がん患者者支援体制構築事業

Tokyo AYA Can ネットワーク
第4回公開ウェビナー

AYA支援チームのつくりかたを学び、サポートの輪を広げよう！

2022.11.19 [土] 13:00-15:00
WEB開催 ZOOM ウェビナー (定員 150名)

参加申込方法
期間：2022年10月22日～11月15日
申込フォームはコチラ

令和5年度の活動予定

- 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会（LCAS）
 - 2023年9月2日 9:30-16:00（ハイブリッド形式）
 - 都立小児総合医療センターにての集合研修もあり
- AYA キャンサー サバイバーズ ミーティング
 - 現在AYA世代のがん経験者を対象とした交流会
 - 2023年9月頃にWeb開催予定
- Tokyo AYA Can ネットワーク 第5回公開ウェビナー
 - AYA世代がん支援に携わる人を対象とした研修会
 - 時期、テーマ未定
- AYAがん相談マニュアルの作成（聖路加、都立小児共同）※令和4年度から引続き



地方独立行政法人 東京都立病院機構

東京都立小児総合医療センター

Tokyo Metropolitan Children's Medical Center

令和4年度小児がん看護研修 @都立小児

・参加者：177名(院外131名)

・参加者：48名(院外34名)

2022年6月18日(土) 13:00-16:00
対象：院内外の小児がん看護初学者
場所：院内会議室+Web

目標：

- ①小児がんの疫学、病態を理解できる
- ②がん薬物療法の看護がわかる
- ③小児がんの子ども、家族への看護が理解できる

小児がんの基礎知識 60分

講師：血液・腫瘍科医長 横川裕一
・小児がんの疫学
・小児がんの代表的な疾患と治療

化学療法を受ける子どもへの看護 50分

講師：がん薬物療法看護認定看護師 上野翠
・抗がん剤とは
・抗がん剤を受ける子どもの看護

小児がんの子どもと家族への看護について 50分

講師：小児専門看護師 西田幹子
・入院する子どもの心理と関わり方について
・小児がん患者の家族の心理と関わり方について

2022年12月18日(日) 13:00-16:00
対象：院内外の全ての看護師
場所：院内会議室+Web

目標：

- ①小児がん患者の長期フォローアップの必要性が分かる
- ②小児がんの治療を受けている子どもに行える入院中からの支援が分かる

小児がん経験者の長期フォローアップ 60分

講師：血液・腫瘍科非常勤医 徳山 美香

長期フォローアップ外来の実際、移行期支援について 45分

講師：緩和ケア認定看護師 瀬戸真由里

小児がん患者、経験者に長期フォローアップのために
明日から行える支援について 55分

グループワーク

- ・自己紹介
- ・ディスカッション (35分程度)
- ・グループ検討内容の発表 (15分)
- ・まとめ (5分)



地方独立行政法人 東京都立病院機構

東京都立小児総合医療センター

Tokyo Metropolitan Children's Medical Center

令和5年度小児がん看護研修 @都立小児

2023年7月8日(土) 13:00-16:00
対象：院内外の小児がん看護初学者
場所：院内会議室+Web

目標：

- ①小児がんの疫学、病態を理解できる
- ②がん薬物療法の看護がわかる
- ③疼痛のある小児がんの子どもへの看護が理解できる

小児がんの基礎知識 60分

講師：血液・腫瘍科医長 横川裕一
・小児がんの疫学
・小児がんの代表的な疾患と治療

化学療法を受ける子どもへの看護 50分

講師：がん薬物療法看護認定看護師 上野翠
・抗がん剤とは
・抗がん剤を受ける子どもの看護

疼痛のある子どもへの看護 50分

講師：緩和ケア認定看護師 土屋周平
・疼痛のある小児がん患者との関わり方について

2023年10~12月

対象：院内外の全ての看護師
場所：院内会議室+Web

目標：

- ①AYA世代の特徴がわかる
- ②AYA世代患者への多職種支援の具体的方法がわかる

AYA世代について 45分

講師：未定

事例をもとに多職種での関わりを考える (未定)



令和4年度
神奈川県立こども医療センター 小児がんセンター主催
小児がん相談支援室セミナー

日時：2023年1月14日（土）14時～16時 Web開催

テーマ：長期治療が必要な高校生の教育保障を考える

～どこにいても、学びたい気持ちを大切に。つなげよう、支援の輪～

1、治療と高校生の学習支援 現場の医師の立場から
血液・腫瘍科 慶野 大医師

2、神奈川県における取組み状況
～高等学校段階の病気療養中等の生徒への学習支援～
神奈川県教育委員会 高校教育課 乾 浩幸様

3、入院時学習サポート制度～三浦学苑モデル
「医療・学校・保護者・本人の合意形成の中から
動き出した支援について」

三浦学苑高等学校 吉田 和市 学校長
中村 洋士 教務主任

4、意見交換会
動きながら
考える！



1ヶ月後に
神奈川県
私立中学校高等学校
協会評議員会

50校以上の校長・理事長に
「長期入院が必要な高校生の
教育保障」の説明
の機会を頂いた！

①神奈川県がんセンター（成人施設）
泌尿器科入院の高校生
↓（学校に相談に）
校長：
先日、小児科医の話を聞いたよ！
オンラインで単位取れるようにするよ！

②私立高校の校長先生
から突然の電話
↓
校長：
生徒が小児がんで入院になったんだけど
どうすれば、教育保障ができる？



昨年のコンテンツも楽しめます！

2023年2月15日は

国際小児がんデー

2023年2月15日～3月31日



小児がん 理解深めよう オンラインでイベント



オンラインイベントで演奏を披露する県立こども医療センター職員や患者で結成されたバンド「Swing for Kids」=チューブより

県立こども医療センター（横浜市南区）は、23日、15歳未満がかかると小児がんの理解を深めてもらうオンラインイベント「みんなで知ろう、小児がんのこと」を開催した。

15日に「国際小児がんデー」を迎えたのに合わせ、同センターの職員らが小児がんに関わりのあるさまざまな団体の協力を得て企画。施設内の体育館で職員や患者で結成されたバンド「Swing for Kids」による演奏やトークショーなどが行われ、動画投稿サイト「YouTube」で生配信された。

トークショーでは、フットサルを通じた小児がん患者支援活動を行う一般社団法人「RING Smile」

LIVE
国際小児がんデー
応援生ライブ!

Youtube生配信

神奈川県立こども医療センター小児がん啓発イベント
～2月15日は国際小児がんDay～
International Childhood Cancer Day
たくさんの愛をとどけよう!
ハートフルフォトプロジェクト



小児がんの子ども達とご家族の応援団の皆様

その他、たくさんの応援団が集まりました



小児がん患者を継続支援へ 横浜市、連携病院に補助金 新設

3病院における
LTFU外来のデータを提出
→今後の課題を横浜市と
相談するベースに
(厚労省から情報提供依頼)

2022年4月から
横浜市内で小児がんLTFU外来を
開設している3病院
(横浜市立大学 & 横浜市南部病院 & 神奈川こども)
に補助金が新設



横浜の小児がん診療を応援したいんです！
小児がん診療体制の維持が重要です。



横浜市内の患者さんですら
受け入れられないことがあります……。
ベットはあるのですが、
小児血液科医（枠）が足りません（涙）



横浜市小児がん修練医制度の新設
神奈川こどもで1年間研修
その後、1年以上の横浜市内での
小児がん診療に従事

2023年4月から



県立病院内に
横浜市からの給与で
修練医枠の設置！
(横浜市大から出向)



小児科 伊藤秀一 教授
柴徳生 先生



小児がん従事者研修



2021年度 初級編
2022年度 アドバンス①

延べ参加者数

合計 444名
関東以外 180名
関東 46名
(関東甲信越ブロック内)
神奈川 218名

2023年度 アドバンス②



項目	単元	項目	時間	タイトル	日程(予定)
疾患及び治療の理解	1	①	45分	脳腫瘍	5/16(火)
	対象理解とチームアプローチ	2	②	45分	CCSの活動について プリパレーションについて
疾患及び治療の理解		3	③	45分	支持療法/検査値の見方
	4	④	50分	肝芽腫	8/15(火)
	5	⑤	45分	小児がんの感染症対策	9/19(火)
	6	⑥	45分	腎腫瘍	10/17(火)
小児がんにおける特別な視点	7	⑦	20分	きょうだい支援	11/21(火)
		⑦	20分		
8	⑧	25分	グリーフケア	12/19(火)	



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構

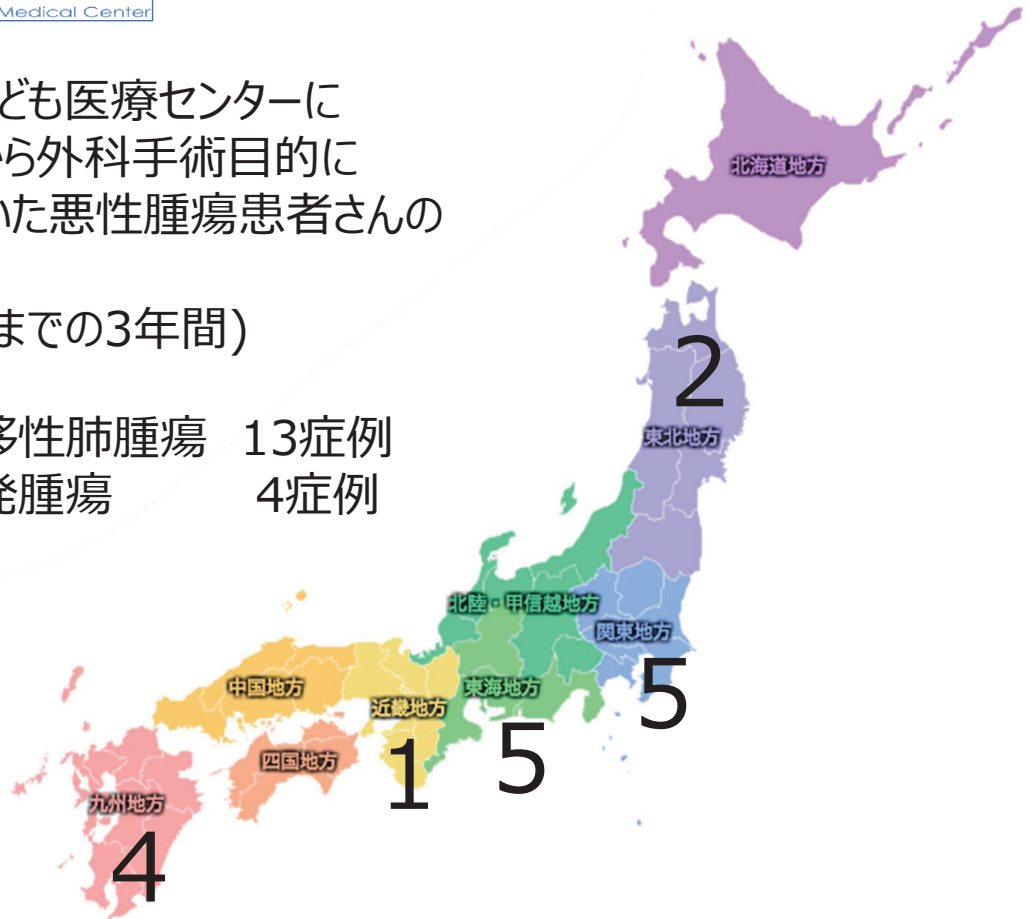
神奈川県立

こども医療センター

Kanagawa Children's Medical Center

神奈川県立こども医療センターに
神奈川県外から外科手術目的に
ご紹介いただいた悪性腫瘍患者さんの
居住地
(2023年6月までの3年間)

転移性肺腫瘍 13症例
原発腫瘍 4症例



横浜 こどもホスピス



うみと
そらの
おうち

連携が始まっています

全国2番目
2021年～

海、空、緑がひろがる
金沢八景の豊かな自然

家族一緒に楽しめる
絶景のお風呂

今後の課題

- ・利用患者さんの急変時の受け入れ
- ・緩和医療スタッフの派遣

など

6歳のお誕生日会を“こどもホスピス”
で開くことを楽しみにしている

関東甲信越ブロック としての取り組み



29

相談支援部会

第9回 関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会 相談支援部会

日時：2022年7月8日（金）15:00～17:00 オンライン開催

出席者数：48名（小児がん拠点病院4施設・小児がん連携病院31施設・その他：2施設）

<議事>・第15回・第16回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会報告

- ・ブロックにおける拠点病院・連携病院の相談支援体制整備について
- ・事前アンケート結果報告
- ・意見交換会（1）各都県でのネットワーク作り（2）事例検討

第10回 関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会 相談支援部会

日時：2023年1月27日（金）15:00-17:00 オンライン開催

出席者数：46名（小児がん拠点病院4施設・小児がん連携病院28施設・その他：3施設）

<議事>・第17回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会報告

- ・「小児がん拠点病院等の整備に関する指針」について
- ・AYA世代がん患者に関する東京都の取り組みについて
- ・小児がん患者の医療機関移行の取り組み 相談支援の立場から
- ・意見交換会（1）地域別グループ（2）テーマ別グループ

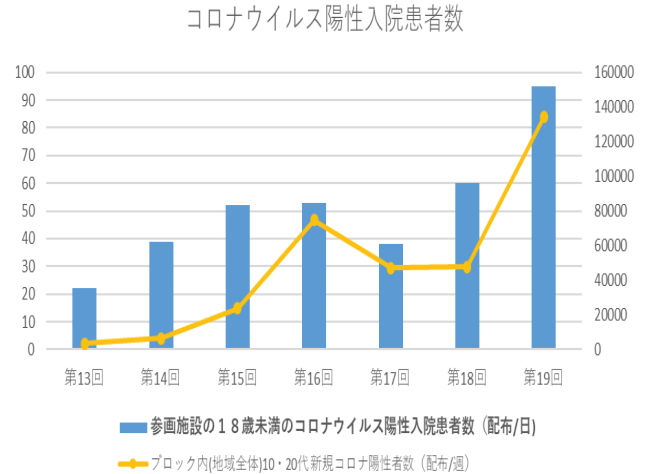
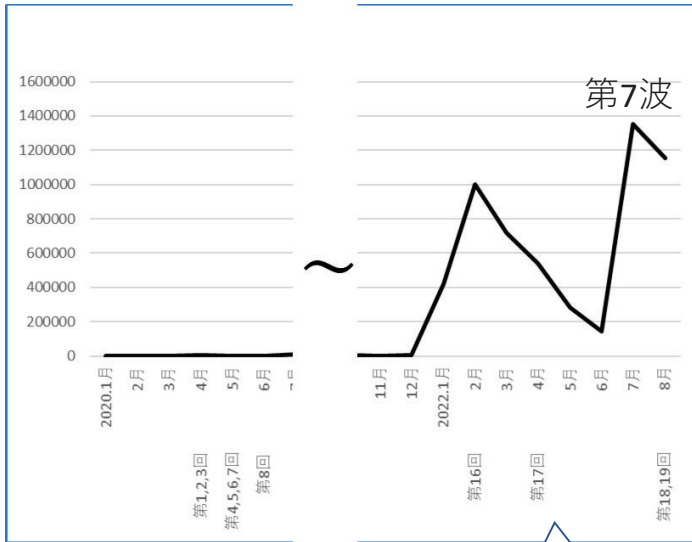
2022年度 関東甲信越地域ブロック小児がん相談支援研修会（テーマ：小児がん終末期をお家で過ごす秘訣）

日時：2022年11月5日（日）13:00-16:30 オンライン開催

参加者：第1部（講演）104名・第2部（グループワーク）19名

小児がん診療現況調査

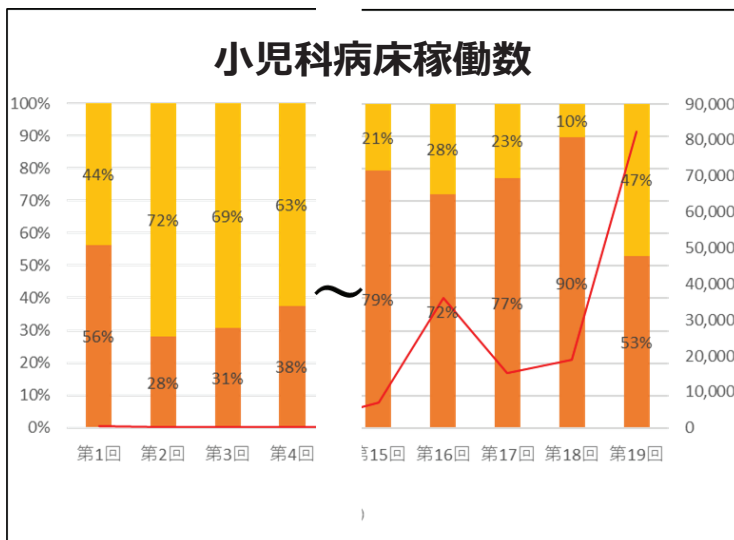
2022年度（4/7/8月に3回実施） 関東甲信越ブロック対象



2020年4月から
いち早く情報収集開始

2022年度も
引き続き継続

31

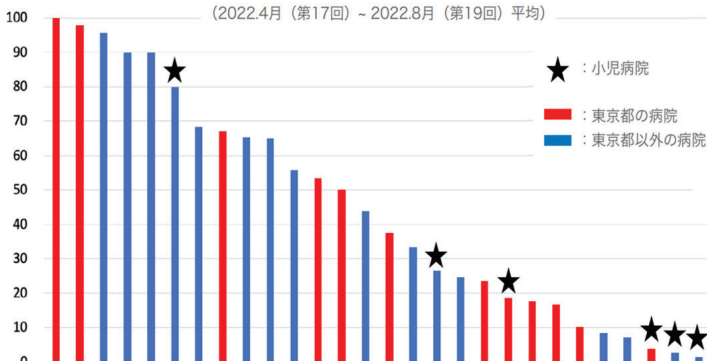


アンケート結果

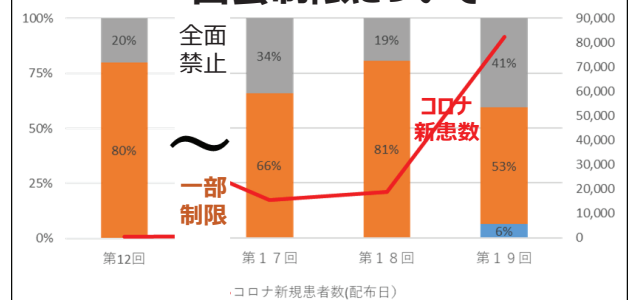
近隣医療機関における
新型コロナ対策の
迅速な共有
病院管理部との
交渉根拠に！

コロナアンケートに見る小児がん患者の付き添い状況

(2022.4月(第17回)～2022.8月(第19回)平均)



面会制限について



32

小児がんゲノム医療の連携

がんゲノムプロファイリング検査の実施

成育

がんゲノム医療拠点病院としてEP実施（累計98例）
 自施設症例 47例、他施設症例 51例
 小児がん専門EPとして、「小児がん等への特別対応」に対応
 関東甲信越ブロックの9施設と連携（全国16施設）

埼玉小児／神奈川こども／都立小児

がんゲノム医療連携病院として、自施設症例の検査を実施

新たながんゲノム検査の開発・実装

JCCG-TOP2

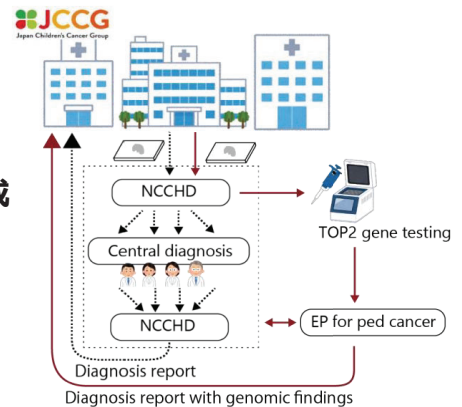
JCCG研究としてTOP2を実施
 ⇒2022年1月～2023年2月で210例登録

小児がんゲノムエキスパートパネルを目指す次世代を育成 全ゲノム解析等実行計画による患者への結果還元

東大・成育で開始 ⇒R5年度は施設を拡大する予定

小児がんに対する治験

国がん中央を中心に実施



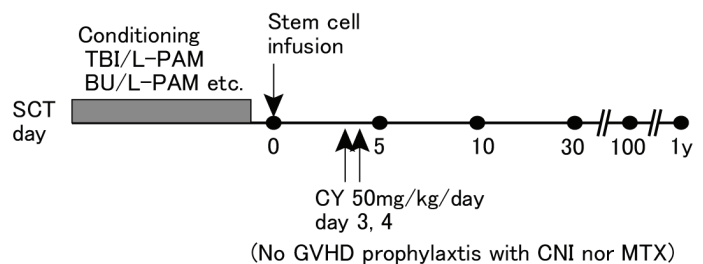
同種造血幹細胞移植における移植後シクロホスファミド単剤によるGVHD予防法の多施設共同第II相試験 (SAP-P2)

研究仮説：

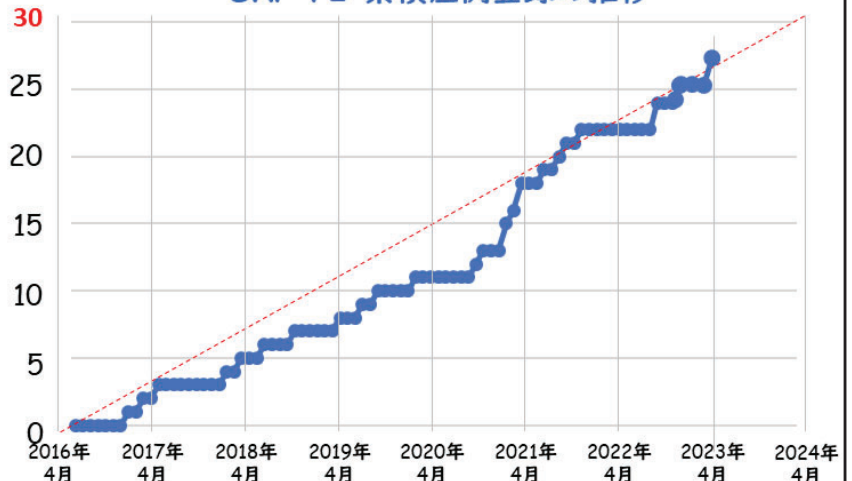
急性白血病の移植に移植後シクロホスファミドの優れたGVHD予防効果を応用することで、免疫抑制剤の使用を最小限にとどめることができる。

主要評価項目：

移植後100日grade2-4 急性GVHD発生率



SAP-P2 累積症例登録の推移



目標症例数：

30名

登録予定期間：

2016年4月～2024年3月

観察期間：

2016年4月～2025年3月

総研究期間：

2016年4月～2026年3月

参加施設：

成育、埼玉小児、東京医歯、都立小児、東大

国内のキムリア®実施可能施設（小児科）



TCCSGメーリングリストを活用した情報提供



2023年度 関東甲信越ブロック 計画

項目	2023年度に取り組むこと
診療体制	再発・難治性がんの診療 造血細胞移植／CAR-T細胞療法（患者紹介体制の構築） ゲノム医療（施設間の情報共有と連携） 生殖機能温存の支援ネットワークの構築 LTFUの施設間の連携強化
人材育成	各種研修の実施（特殊治療・緩和ケア・LTFUなど） 多職種の人材交流・Webカンファレンスの活用
相談支援	相談実績の向上 相談支援体制の整備・研修の実施 情報提供／情報収集（高校教育支援など）
臨床研究	JCCG臨床研究の推進・ブロック全体の参加率向上 4拠点病院を中心とした臨床研究推進 治験・臨床試験に関する情報共有体制整備
その他	医療安全体制の整備 未承認新規医薬品・適応外使用等の安全性・妥当性・倫理性を検討する委員会の活用

東海北陸ブロック報告

静岡県立こども病院

渡邊 健一郎

三重大学医学部附属病院

平山 雅浩

名古屋大学医学部附属病院

高橋 義行

2022年度の事業報告

東海北陸ブロック

東海北陸ブロック小児がん連携病院



東海北陸ブロック地域小児がん医療連携体制連絡協議会

第9回：2022年10月24日（金） Web開催
参加者：6県13人、17施設 33人（拠点病院除く）

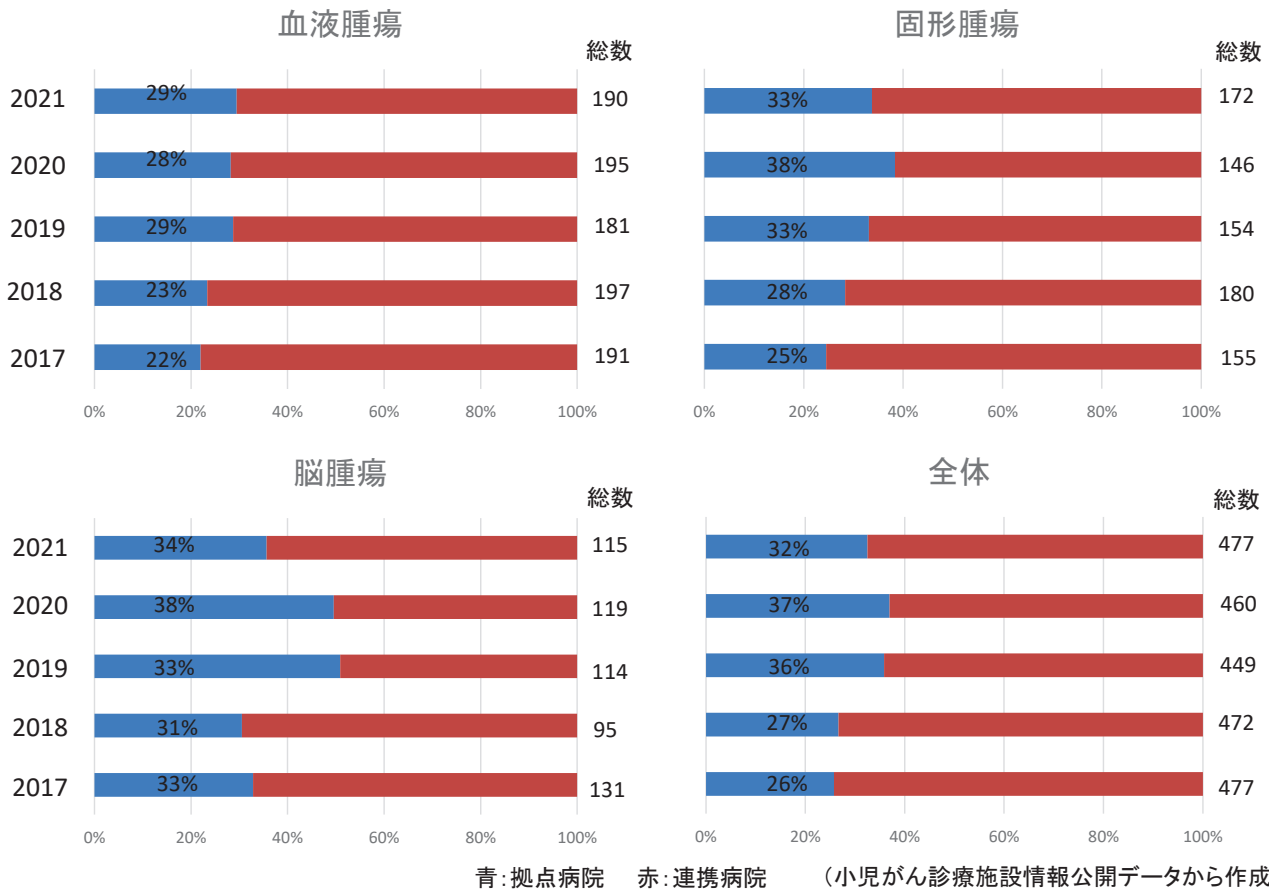
第10回：2023年3月17日（金） Web開催
参加者：6県11人、17施設 34人（拠点病院除く）

連携医療機関	類型*
1 富山大学附属病院	1、3
2 金沢大学附属病院	1、3
3 金沢医科大学病院	1
4 岐阜大学医学部附属病院	1、3
5 岐阜市民病院	1、3
6 静岡県立静岡がんセンター	1、2、3
7 聖隷浜松病院	1
8 浜松医科大学医学部附属病院	1、3
9 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	1、3
10 愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院	1
11 愛知医科大学病院	1
12 名古屋医療センター	1、2、3
13 藤田医科大学病院	1、3
14 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	1
15 名古屋市立大学病院	1
16 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	2
17 豊橋市民病院	1

* 類型

- 1：地域の小児がん診療を行う連携病院
- 2：特定のがん種等についての診療を行う連携病院
- 3：小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院

診療実績の推移



2022年度の事業報告

医師向け

● 小児脳腫瘍セミナー

2023年 1月16日
17施設 61名



● 東海小児がん研究会

2022年9月24日
24施設 85名
2023年2月18日
29施設 91名



● 小児血液・がんセミナーin 中部

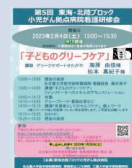
学会専門医更新単位認定
(5単位)
2023年2月14日
39施設 100名



看護師向け

● 小児がん看護研修会

2023年2月4日
10施設 34名



● 小児がん看護検討会 (通称: PONTHA)

2022年 5月20日 15施設 45名
10月 7日 17施設 58名
2023年 2月17日 11施設 55名



多職種向け

● 小児がん相談支援部会

2022年9月10日
14施設 36名



● 中部小児がんトータルケア研究会

2022年10月29日
132名



● アウトリーチ型多職種連携研修会 (金沢)

2022年7月23日
19施設 49名



● ジブリングサポーター研修ワークショップ

2022年8月6日
72名



● LCAS

2022年8月20日
32施設 38人



2023年度の事業計画

■ 小児がん拠点病院と連携病院との連携構築促進

東海北陸ブロック地域小児がん医療連携体制協議会

日時：7月14日 方法：Web会議形式

■ 小児がん・AYAがん診療と相談支援の充実

小児がん相談支援部会、相談員ミーティングの継続開催

AYAがん診療及び相談支援体制の継続的な課題抽出

■ 脳腫瘍セミナーの開催、連携の推進

脳腫瘍診療の課題に対する研修会や相談支援の連携強化

■ 多職種連携の推進

アウトリーチ型研修会（6月17日）中部小児がんトータルケア研究会（10月21日）

■ LCAS開催

7月22日 三重大学

■ 小児がん看護研修

東海北陸ブロック小児がん診療病院看護研修会、小児がん看護検討会(PONTHA)

■ 小児がん終末期医療体制の実態調査

人生会議（ACP）、協働意思決定（SDM）など

小児がん連携病院の指定

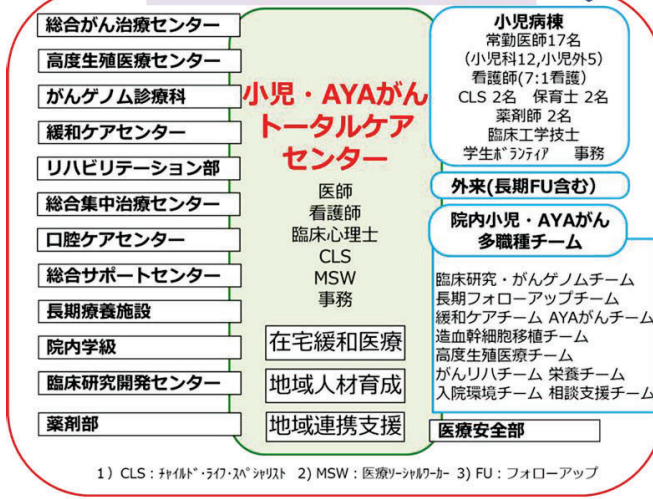
- 2022年9月1日時点の現況報告と小児がん診療施設情報(国立成育医療研究センターウェブサイト)を用いて選定
- 類型I-Aは、2019年、2020年、2021年各年の症例数および平均症例数が20例以上の施設
- 1-A:7施設, 1-B:8施設, 2:1施設(陽子線), 3:1施設(計17施設)
各県に1施設は拠点あるいは1-Aの施設が配置される

県	0～19歳人口	拠点+1-A施設数	0～19歳人口/施設数
富山県	161860	1	161860
石川県	189879	1	189879
岐阜県	336845	1	336845
静岡県	600651	2	300326
愛知県	1334785	4	333696
三重県	296009	1	296009

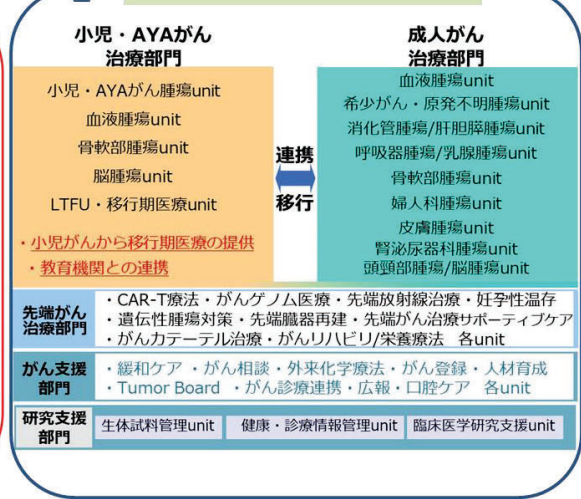
【小児・AYAがん診療体制の特徴】

- 三重県のがん診療連携拠点病院として県内がん診療の要として機能
- 成人がんのみでなく、小児・AYAがん診療の充実とシームレスな連携のために、総合がん治療センターを設置(2022年11月)
- 小児・AYAがんについては、小児・AYAがんトータルケアセンターを中心に、診療部門を超えた多職種支援体制を提供
- 小児がん患者が安心して医療が受けられるよう、妊孕性温存、在宅緩和医療、相談支援窓口等とも連動して、患者と家族が求めるニーズに対応
- AYA世代がん患者については、県行政および県内がん診療連携病院も交え「みえ小児・AYAワーキング」を設置し、質の高い医療連携体制を構築し、患者の診療・支援の充実の推進
- 高校生教育支援の充実を目的に、院内支援学級に高等部(県特別支援学校分校)を設置(2022年4月)
- ゲノム拠点病院として多くのゲノムプロファイリング検査結果を検討するとともに、総合がん治療センターの研究支援部門とも協力し、創薬やがん免疫療法に繋がる基礎研究を展開

小児・AYAがん診療体制



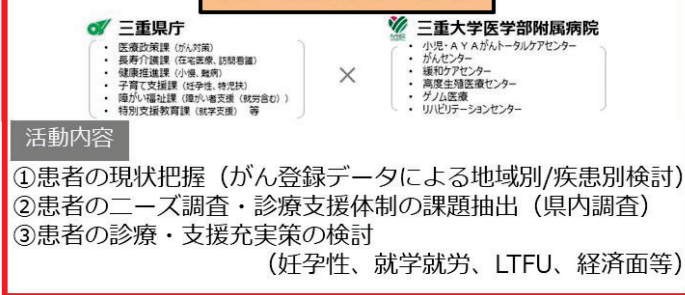
総合がん治療センター



小児・AYAがん診療・支援体制の充実に目的に、県行政と当院関連部局による「小児・AYAがんワーキング」活動の推進

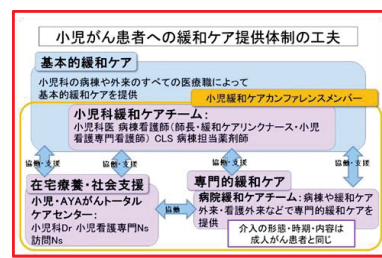
院内小児・AYAがん機能別支援チームによる継続的活動の実践

小児・AYAがんワーキング



- 小児・AYAがん患者と家族支援体制整備
 - 院内チーム活動の定期モニタリング
 - 小児がんTumor Boardの継続実施
 - 外来機能の拡充と病棟連携看護師配置
- 小児・AYAがんの長期FU体制の充実
 - 患者別治療サマリーのまとめ・返却
 - 移行期医療連携体制の検討
 - 生殖医療体制強化と周知
- AYAがん診療支援体制の充実
 - AYAチームによるスクリーニングシートの活用
 - 院内・院外Web研修会の実施
 - 院内高等部の運用開始
 - アンメットニーズ調査・解析
- 小児がん緩和ケア支援体制整備
 - 小児緩和ケアチームと充実

- 小児がん拠点病院における体制充実
- 次期三重県がん対策推進計画 (R6~) へ反映
- 患者支援に繋がる事業の展開
- 地域がん連携拠点病院、準拠点病院、連携病院における診療・連携・相談支援の展開



県内における小児・AYA世代がん診療・支援の充実

多職種支援型長期フォローアップ外来:多職種(医師・薬剤師・MSW・看護師) **事前カンファレンス**による課題抽出・共有、当日問診票・面談・診察

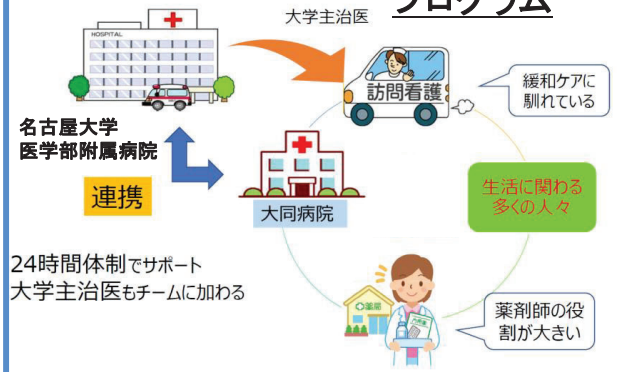
妊孕性温存の取り組み:入院時に説明文書で説明

- ・卵子・胚凍結 卵巣組織凍結:対象 12-45歳
- ・精子凍結:対象 思春期以降

AYA世代支援・学習支援:

- ・学校カンファレンス:地元学校と**入退院時、進学時**
- ・中高生への学習支援:在籍校から**訪問教育実施**
- ・**学習支援ボランティア**サークル「パレタス」
- ・クワッサンス(AYA世代小児がん経験者の会)

地域病院連携小児がん在宅医療プログラム



タイのチュラロンコン大学を支援してCAR-T細胞療法で成果(2023年3月28日、合同記者会見)



小児用ドクターカー運用報告・お披露目会
(2023年3月18日)



診療体制(長期フォローアップ外来含む):

再発・難治白血病または進行期小児固形腫瘍について、20例程度の診療を行う。また、年間30件程度の同種造血細胞移植実績を目指す。

生殖機能温存の支援を行う体制を構築し、地域ブロックで年間5例以上の精子、未受精卵子、卵巣組織、受精卵(胚)保存実績を目指す。

ブロック内医療機関による長期フォローアップへの取り組みに関する情報を公開する。成人医療機関に引き継ぐための移行プログラムを作成・実行し、年間5例程度(併診を含む)の移行実績を目指す。

人材育成:

拠点病院の特性を活用した研修(がん免疫療法や在宅医療など)を年1回開催する。

専門資格取得を目指す医師・看護師・薬剤師の研修に対する支援を行い、年間1名以上の専門資格取得を目指す。医師・看護師・薬剤師・放射線技師・社会福祉士等の人材交流を計画し、年間1名以上の研修受け入れを目指す。

TV会議システムを利用した北陸・東海地区両方の医療機関が参加する症例検討会・研究会を年間2回程度開催する。

臨床研究:

地域ブロックを中核として、臨床研究を推進する協力体制を整備し、現在予定している臨床研究を協力して行うことを目指す。

重点的に取り組んでいる課題:

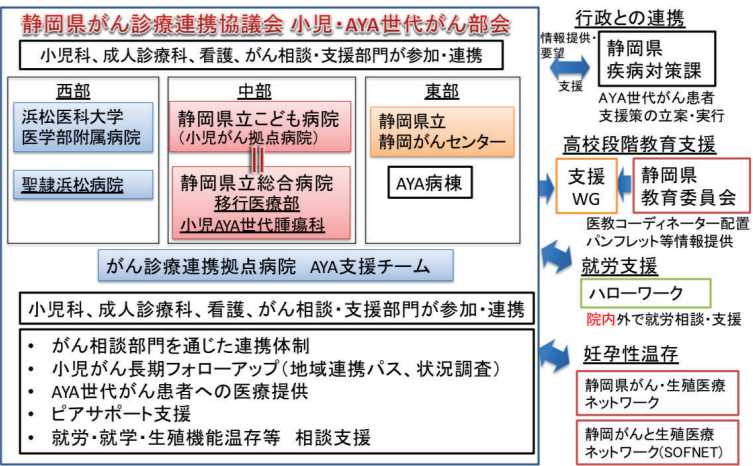
医療安全対策に係る研修会を年1回以上開催することを目指す。

静岡県立こども病院事業報告

東海北陸ブロック

- 小児がん連携協議会、部会、研究会
- LCAS主幹施設として開催
- 第2回東海北陸ブロック小児脳腫瘍セミナー開催
- 小児がん看護検討会(PONTHA)開催
- 中部小児がんトータルケア研究会開催
- がんの子どもへのトータルケア研究会静岡開催
- 臨床研究体制強化
- 小児がんゲノム医療の実践
- オンラインカンファレンスの継続
 - 専門医の参加する脳腫瘍、緩和ケアカンファレンス
 - 小児がん連携病院との症例オンラインカンファレンス

- 高校段階教育支援
 - オンライン授業単位認定体制確立
 - 医教コーディネーター配置
 - 県教育委員会とのWGの設置
- 小児がん市民公開講座開催
- 静岡県がん診療連携協議会小児・AYA世代がん部会活動
 - がん診療連携拠点病院AYA支援チームとの連携
- 長期フォローアップ体制強化
 - 成人医療移行実績把握
 - 県移行医療支援センターとの連携
- 生殖機能温存体制の整備
 - 静岡県がん・生殖医療ネットワーク参画
 - 生殖機能温存サポートチーム活動開始
- AYA世代がん研修・ピアサロン実施
 - 静岡版AYA支援ネットワーク構築のためのワークショップ(県内医療者向け研修)開催
 - ピアサロン、若者たちの大座談会開催
 - Case study for family care Associated with SCC and SCH(静岡がんセンターとの症例検討)
 - ピアサポートサミット
- ハローワークと提携、就労相談会開催
- 緩和ケア提供体制拡充
 - がん診療連携拠点病院緩和ケア認定医の参加

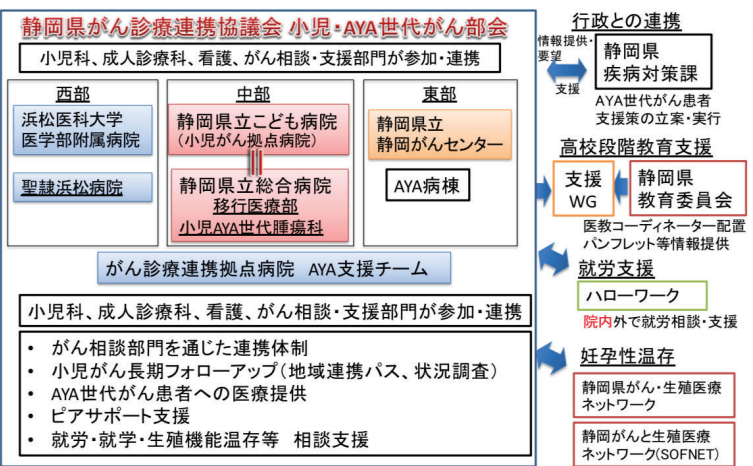


静岡県立こども病院事業計画

東海北陸ブロック

- 小児がん連携協議会、部会、研究会
- 第3回東海北陸ブロック小児脳腫瘍セミナー開催
- 小児がん看護検討会(PONTHA)開催
- 中部小児がんトータルケア研究会開催
- がんの子どもへのトータルケア研究会静岡開催
- 臨床研究体制強化
- 小児がんゲノム医療の実践
- オンラインカンファレンスの継続
 - 専門医の参加する脳腫瘍、緩和ケアカンファレンス
 - 小児がん連携病院との症例検討カンファレンス

- 高校段階教育支援の強化・拡大
 - オンライン授業の最適化
 - 医教コーディネーターとの連携強化
 - 県教育委員会とのWG継続
- 小児がん市民公開講座開催
- 静岡県がん診療連携協議会小児・AYA世代がん部会活動
 - がん診療連携拠点病院AYA支援チームの参加拡大
- 長期フォローアップ体制強化
 - 成人医療移行実績把握
 - 県移行医療支援センターとの連携
- 生殖機能温存体制の整備
 - 静岡県がん・生殖医療ネットワーク参画
 - 生殖機能温存サポートチーム活動強化
 - 県外生殖機能温存施設の連携
- AYA世代がん研修・ピアサロン実施
 - 静岡版AYA支援ネットワーク構築のためのワークショップ(県内医療者向け研修)開催
 - ピアサロン、若者たちの大座談会開催
 - Case study for family care Associated with SCC and SCH(静岡がんセンターとの症例検討)
 - ピアサポートサミット
- ハローワークと提携、就労相談会開催
- 緩和ケア提供体制拡充
- きょうだい支援



2023年6月28日
小児がん拠点病院連絡協議会

第18回小児がん拠点病院連絡協議会 近畿ブロックの取り組み

近畿ブロック小児がん拠点病院連絡協議会

近畿ブロックの連携病院 (類型1:地域の小児がん診療 17施設)

*:複数の拠点病院と連携

		京都大学 (7施設)	京都府立 医科大学 (3施設)	大阪市立総合 医療センター (10施設)	兵庫県立 こども病院 (2施設)	
福井	福井大学	○				1
滋賀	滋賀医科大学*	○	○			2
	大津赤十字病院	○				
京都	京都市立病院		○			1
大阪	北野病院*	○		○		7
	大阪赤十字病院*	○		○		
	近畿大学			○		
	大阪市立大学			○		
	大阪大学			○		
	大阪母子医療センター			○		
奈良	奈良県立医科大学			○		1
	和歌山	○		○		2
	和歌山県立医科大学			○		
兵庫	県立尼崎総合医療センター*	○			○	2
	神戸大学				○	
岐阜	岐阜市民病院		○			1

近畿ブロックの連携病院 (類型2:特定がん種の診療を行う3施設)

		京都大学 (1施設)	京都府立 医科大学 (なし)	大阪市立総合 医療センター (なし)	兵庫県立 こども病院 (2施設)	
福井	福井県立病院 (陽子線治療)	○				1
兵庫	兵庫県立がんセンター (軟部腫瘍など)				○	2
	神戸陽子線センター (陽子線治療)				○	

近畿ブロックの連携病院 (類型3:長期の診療体制の強化13施設)

		京都大学 (4施設)	京都府立 医科大学 (4施設)	大阪市立総合医 療センター (2施設)	兵庫県立 こども病院 (6施設)	
福井	福井赤十字	○				1
滋賀	近江八幡市立総合医療センター		○			1
京都	京都桂病院	○				2
	国立病院機構舞鶴医療センター		○			
大阪	松下記念病院		○			1
奈良	天理よろづ相談所病院	○				2
	近畿大学奈良病院			○		
兵庫	明石市民病院*		○		○	6
	加古川市立中央市民病院				○	
	西神戸医療センター*	○			○	
	姫路赤十字病院				○	
	北播磨総合医療センター				○	
	兵庫医科大学*			○	○	

*:複数の拠点病院と連携

近畿ブロック連絡協議会の構成

拠点病院

京都大学医学部附属病院
京都府立医科大学附属病院
大阪市立総合医療センター
兵庫県立こども病院

連携病院

福井	福井大学医学部附属病院	奈良	奈良県立医科大学附属病院
	福井赤十字病院		近畿大学医学部奈良病院
	福井県立病院		天理よろづ相談所病院
滋賀	滋賀医科大学附属病院	和歌山	和歌山県立医科大学附属病院
	大津赤十字病院		日本赤十字社和歌山医療センター
京都	国立病院機構舞鶴医療センター	兵庫	神戸大学医学部附属病院
	京都市立病院		兵庫医科大学病院
	京都桂病院		兵庫県立尼崎総合医療センター
大阪	大阪大学医学部附属病院		神戸陽子線センター
	大阪市立大学医学部附属病院		兵庫県立がんセンター
	近畿大学医学部附属病院		西神戸医療センター
	大阪母子医療センター		明石市立市民病院
	大阪赤十字病院		北播磨総合医療センター
	北野病院		加古川中央市民病院
	松下記念病院		姫路赤十字病院
	関西医科大学	岐阜	岐阜市民病院

近畿ブロック小児がん拠点病院の連携状況 (昨年度)

日時	概要
2022年8月29日 (Web会議)	令和4年度第1回近畿ブロック小児がん医療提供体制協議会
2023年2月20日 (Web会議)	令和4年度第2回近畿ブロック小児がん医療提供体制協議会
2023年3月4日 (大阪市立総合医療センター)	第45回近畿小児血液・がん研究会

近畿ブロック小児がん拠点病院の連携状況 (今年度予定)

日時	概要
2023年5月9日 (オンライン)	近畿ブロック小児がん拠点病院Web会議 小児がんカテゴリー1の連携病院サブカテゴリ分け方針協議 小児がん地域計画の作成についての意見交換
2023年8月7日 (オンライン)	令和5年度第1回近畿小児がん医療提供体制協議会 小児がん連携病院指定手順に関する連絡 小児がん地域計画の進捗状況の報告
2022年2月〇日 (オンライン)	令和5年度第2回近畿小児がん医療提供体制協議会 小児がん連携病院指定手順に関する連絡 小児がん地域計画の進捗状況の報告
2022年3月16日 (和歌山県立医科大学)	第46回近畿小児血液・がん研究会

近畿ブロック小児がん拠点病院の連携状況 —近畿ブロック小児がん拠点病院看護連絡会—

目標:ブロック内の小児がん看護の質の向上、連携強化

2022年度担当施設: 京都大学医学部附属病院

(1) 定期会議参加: 5施設(拠点病院4施設と協力病院1施設)

- ① 2022年5月24日(火) Web会議: 5施設 看護研修の計画、各施設の研修状況、小児の捕食について等
- ② 2022年10月27日(木) Web会議: 5施設 看護研修進捗、入院中の荷物の制限と環境整備について等
- ③ 2023年3月23日(木) Web会議: 5施設 看護研修の評価、COVID-19が5類移行後の各施設の状況について等

(2) 近畿ブロック小児がん拠点病院看護連絡会 5施設共催 小児がん看護研修 : 事前申込67名

ライブ配信参加22名、オンデマンド配信のべ196回

- 1) 日程:ライブ配信 2023年1月7日(土)13時~14時15分
オンデマンド配信 2023年1月14日(土)~2月6日(月)
- 2) 研修会テーマ:「小児CAR-T細胞療法における看護について」
- 3) 研修会講師: 京都大学大学院医学研究科 発達小児科学医師、小児科看護師、チャイルド・ライフ・スペシャリスト
- 4) 研修会目的: 小児がん看護の専門的知識の習得と実践能力の向上、近畿ブロック内の小児がん看護の連携強化
- 5) 内容: ①「小児CAR-T細胞療法における看護について」
②「小児CAR-T細胞療法における子どもへの支援について」
③「小児CAR-T細胞療法について」※オンデマンド配信のみ

近畿ブロック小児がん拠点病院の連携状況 —近畿小児血液・がん研究会看護部門—

目的:小児血液・がんの子どもとその家族の生活の質の向上と、臨床的研究や知見・情報の交換、
討議を通じて看護実践および研究の発展と向上に寄与すること

(1) 定例会

2022年度は、従来に戻り、年に5回開催
会議は、オンラインで開催(6月・8月・10月・11月・3月)
近畿圏の16施設(拠点4施設含む)が参加

(2) 講演会の主催

- 1) 日程:ライブ配信 2022年8月20日(土) 10時~12時
- 2) テーマ:「小児がんと新型コロナウイルス感染症」
- 3) 講師:兵庫県立尼崎総合医療センター 小児救急治療科・小児感染症内科医師

近畿ブロック小児がん拠点病院の連携状況 —相談支援部会—

1. 第18回小児がん拠点病院相談支援部会:2023年6月2日
2. 近畿ブロック小児がん拠点病院相談員研修打合せ会議(Zoom)
:2023年6月1日、次回以降8月、10月開催予定
3. 近畿ブロック小児がん拠点病院相談支援部会主催小児がん相談員研修
:2023年11月25日(土)

近畿ブロック相談支援部会主催小児がん相談員研修 WEB開催(Zoom)

テーマ『終末期を見据えた小児がんの子どもと家族への支援における相談員の役割』

講演①『(仮)終末期、看取りについて』京都府立医科大学付属病院 宮地充医師

講演②『(仮)在宅診療の実際』いとうクリニック 伊藤剛医師

講演③『(仮)訪問看護の実際』訪問看護ステーションさくら 伏木看護師

事例報告 各小児がん拠点病院の相談員(2名)

情報共有

今年度の近畿ブロック小児がん地域計画 (診療体制)

目標	2023年度に取り組むこと
<p>■がん治療 各拠点病院が所在する府県及び拠点病院のない近隣県に対する先導的役割を果たし、再発■難治例、診療を集約すべき特定のがん種(脳腫瘍や骨軟部腫瘍等)といった均てん化ができない症例の診療にかかわる。均てん化が可能ながん種については、拠点病院と連携病院で連携することで最適な診療を提供する。</p> <p>■晩期合併症対策 必要とするすべての小児がん経験者に対し、成人診療医療機関を含めた地域連携により、適切な長期フォローアップを行う。</p> <p>■生殖機能温存 すべての患者と家族に治療の妊孕性への影響についての情報提供を行うと同時に、妊孕性を確保するための体制を整備する。</p> <p>■啓蒙、啓発活動 毎年、患者、経験者、家族を対象とした情報提供や啓蒙のための活動が行われている。</p>	<p>連携病院で発生した均てん化が難しい症例(再発・難治例あるいは診療を集約すべき特定のがん種)について、カンファレンスやセカンドオピニオンなどにより、拠点病院が把握できる体制を整備する。また、AYA世代を含む脳腫瘍・骨軟部腫瘍については、成人診療機関との連携を進める。カテゴリー1の連携施設のサブカテゴリーを決定する。</p> <p>災害や感染症アウトブレイクの際の近畿ブロックの Business Continuity Plan (BCP)を作成する</p> <p>医療の質の指標として、拠点病院と連携病院でQIの算定を行う。また、患者満足度を評価する体制の整備を進める。</p> <p>移行期医療推進センターの利用、長期フォローアップパンフレットの共有等を通じて、AYA世代の連携・フォローアップを強化する</p> <p>リハビリテーションと生殖機能温存治療依頼診療機関情報をバージョンアップし、紹介可能な紹介先を提供する。</p> <p>ニーズを測りつつ、Web開催等で、小児がんに関する一般・患者家族向けの講演会を実施する。</p>

今年度の近畿ブロック小児がん地域計画 (人材育成)

目標	2023年度に取り組むこと
<p>活発な人材交流がなされている。 幅広い分野(小児がん看護、緩和ケア)に対する研修が開催されている。</p>	<p>施設をまたぐ人の入れ替わりは難しいことから、研修会の実施やWebセミナーの拡充による人材育成を目指す。 各地区で全連携病院が参加する症例検討会・研究会を年間3回程度開催する。</p>

今年度の近畿ブロック小児がん地域計画 (相談支援)

目標	2023年度に取り組むこと
患者の求める情報を提示し、適切な医療や支援の提供につなげることが出来る。	引き続き、それぞれの地区で連携病院が拠点病院に相談できる体制を作る。 就労支援に関して、研修会を行うなど、拠点・連携病院における体制整備を進める。 引き続き、拠点病院が連携病院からのセカンド・オピニオンを積極的に受け入れる。また、各病院の実績を把握する

今年度の近畿ブロック小児がん地域計画 (臨床研究)

目標	2023年度に取り組むこと
オールジャパン体制の臨床研究を推進する協力体制が整備されている。	地域ブロックにおいて実施されている治験を主とした臨床研究についての情報共有や、 ブロック内で積極的な患者紹介 を継続する。 拠点・連携各病院における治験の受け入れ・紹介実績を把握する。

今年度の近畿ブロック小児がん地域計画 (その他重点的に取り組んでいること)

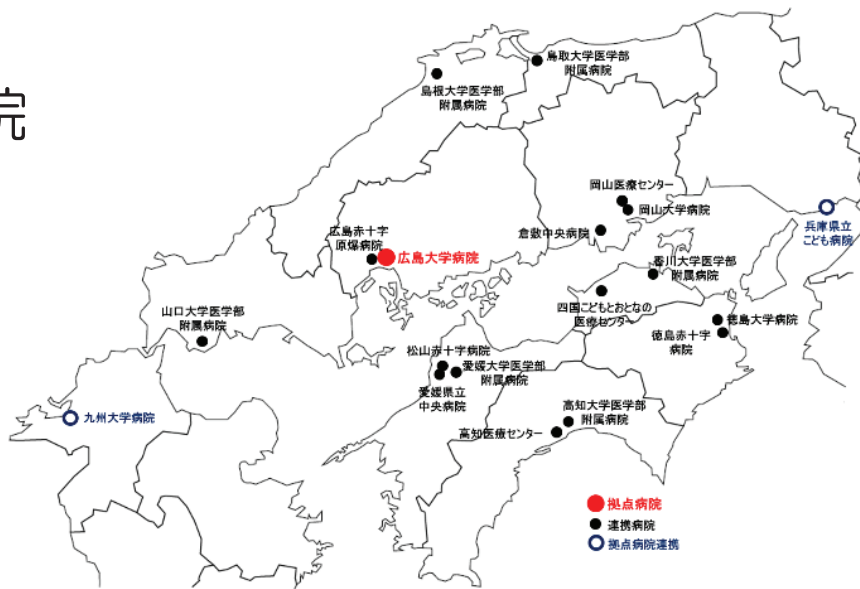
- ①がん患者の療養生活の質
- ②患者の発育・教育等に関して必要な環境整備

目標	2023年度に取り組むこと
<p>①在宅医療を含めた充実した終末期医療を受けられる。</p> <p>②療養中においても継続して教育を受けることができる。</p>	<p>2020年度に作成・共有した在宅医療依頼施設の情報をバージョンアップする</p> <p>終末期医療に関する好事例の拠点病院や連携病院間での情報共有を継続する。</p> <p>ICT活用など様々な方法による療養患者への教育提供プロジェクトを進める</p>

昨年度の事業報告と今年度の事業計画について

中国・四国ブロック

広島大学病院



病院概要

ご来院のみなさまへ

診療科・部門のご案内

施設のご案内

ご相談窓口

Home > 広島大学病院 > 小児がん拠点病院

概要

ご来院のみなさまへ

診療科・部門のご案内

施設のご案内

ご相談窓口

がん治療センター（がん診療連携拠点病院）

小児がん拠点病院

> 小児がん拠点病院とは

> 診療実績

> 小児がん医療相談

> スタッフ紹介

> 中国・四国ネットワーク

> ファミリーハウス

> 小児がんに関する臨床研究

> 中国・四国地域の小児がん患者さんご家族のためのサポートブック

小児がん拠点病院

平成25年2月、広島大学病院は「小児がん拠点病院」に指定されました。[厚生労働省・報道発表](#)



小児がん拠点病院

小児がん拠点病院とは	セカンドオピニオンについて	ファミリーハウス
診療のご案内	スタッフ紹介	小児がんに関する臨床研究
診療実績	中国・四国ネットワーク	サポートブック
小児がん医療相談	新聞報道	外部情報サイト

第10回中国四国ブロック連絡協議会（年1回）

（出席者：連携病院医療者、各県のがん対策部署、がんの子どもを守る会支部）

2023年1月21日

- ・中四国ブロックの連携体制
- ・各施設の現況報告
- ・各施設の妊孕性温存の実施状況
- ・各県の妊孕性温存療法研究促進事業について
- ・小児がん拠点病院等の指定要件に関する要望について
- ・ICT活用状況について 他

【小児血液・がんセミナー in 中四国】

- ・小児脳腫瘍のガイドラインと最近のトピックス
- ・一過性骨髄異常増殖症(TAM) 他

出席者数（協議会）

医師：40名
看護師：1名
行政：6名
がんの子どもを守る会：2名
その他：1名
合計：50名

2023年度 中国四国ブロック
連絡協議会

2024年1月 開催予定

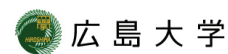


医師間Web会議（2022年度：9回開催）

回数	日時	参加者	内容
第88回	2022/4/27	18病院医師 広島県職員 徳島県職員	小児・AYA世代がんの長期フォローアップに関する研修会について 小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存セミナーについて CVカテーテル血栓溶解のためのウロキナーゼの供給不足に対する対応について 症例検討：左側頭部spindle cell sarcomaの1例、Ependymomaの4例
第89回	2022/5/25	17病院医師	小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存セミナーについて 小児がんの子ども教育セミナーについて 症例検討：プリナツモマブ使用中に髄外再発をきたしたmatureB-ALLの幼児例 前回の提示症例の進捗：左側頭部spindle cell sarcomaの1例
第90回	2022/6/22	18病院医師 看護師	中国・四国ブロック小児がん相談支援部会報告 第16回小児がん拠点病院連絡協議会報告 小児がんの子ども教育セミナーについて ネットワーク会議の開始時間の変更について 症例検討：治療開始前から血小板輸血不応をきたしたALL症例
第91回	2022/7/27	15病院医師 広島県職員	小児固形がんPrecision Medicine Seminar in 関西について 小児がんの子ども教育セミナーについて ネットワーク会議の開始時間の変更について
第92回	2022/9/28	16病院医師	小児がん連携病院QI（松本班）について 小児がん診療施設 情報公開資料の作成について 小児がん拠点病院・連携病院の整備指針について 新専門医制度の血液専門医について 症例検討：視神経膠腫の臨床診断を基に化学療法を実施した幼児例
第93回	2022/10/26	18病院医師	小児血液・がんセミナー in 中四国の開催について 第74回中国四国小児科学会 in KOCHI について 症例検討：混合表現型急性転化で発症した小児慢性骨髄性白血病の一例
第94回	2022/11/16	17病院医師	「小児がん拠点病院等の指定要件」に関する要望について 症例検討：寛解導入療法中に肝臓閉塞症候群(SOS)を発症した再発小児BCP-ALLの一例
第96回	2023/2/22	17病院医師	第17回小児がん拠点病院連絡協議会報告
第97回	2023/3/22	15病院医師	次年度小児がん中国・四国ネットワーク会議の開催予定について 症例検討：多発肺嚢胞のために呼吸不全を来した多臓器型ランゲルハンス細胞組織球症、 腎機能障害を伴うHigh-grade B-cell lymphoma, NOSの1例

2023年度 医師間Web会議 計9回 開催予定

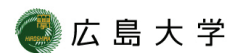
がんゲノム勉強会（2022年度：6回開催）



広島大学

日時	担当施設	内容
2022/4/27	愛媛大学医学部 附属病院	がん遺伝子パネル検査でBRAF V600E変異を認めた脳腫瘍の2症例
2022/5/25	岡山大学病院	ARHGEF2-NTRK1融合遺伝子陽性High-grade glioneuronal tumorの1例
2022/6/22	倉敷中央病院	がん遺伝子パネル検査を行った稀な腎腫瘍の一例
2022/9/28	鳥取大学医学部 附属病院	当科におけるがん遺伝子パネル検査症例の経験
2022/10/26	島根大学医学部 附属病院	当科におけるがん遺伝子パネル検査の症例
2022/11/16	山口大学医学部 附属病院	中縦隔原発のInflammatory myofibroblastic tumorの1例
2023/4/26	広島大学病院	エビデンスレベルについて

小児がんWeb講演会（2022年度：2回開催）



広島大学

日時	講師	演題	参加者数
2022/7/27	国立成育医療研究センター 小児がんセンター センター長 松本 公一 先生	造血細胞移植後の血管内皮障害	50名
2023/2/22	名古屋大学大学院医学系研究科 小児科学 教授 高橋 義行 先生	小児・AYA世代の再発・難治 急性リンパ性白血病の治療戦略	49名

看護カンファレンス（2022年度：9回開催）

回数	日時	参加者	内容
1	2022/4/27	16病院看護師	AYA世代がん患者と家族への意思決定支援について
2	2022/5/25	18病院看護師	AML患児のCV管理について
3	2022/7/27	18病院看護師	AYA世代における骨髄移植後の内服管理について CV管理について
4	2022/8/24	17病院看護師	AYA世代終末期患者の支援について 抗がん剤暴露対策について
5	2022/9/28	18病院看護師	治療上の処置や日常的なケアに対して拒否が強く介入に困難した事例について
6	2022/11/16	19病院看護師	学童期のボディイメージの変容に対する支援について
7	2023/1/25	18病院看護師	小児のACP導入について
8	2023/2/22	18病院看護師	化学療法中の清潔管理に対する認識の違いについて
9	2023/3/22	19病院看護師	退院について家族の焦りや児との気持ちの対立があり、双方の気持ちを尊重したい難しさ コロナ禍での患者家族の付き添いについて

※2015年度～2022年度 計71回開催

2023年度 看護カンファレンス

2023/4/26, 5/24 開催済み

7/26, 8/23, 9/27, 11/22, 2024/1/24, 2/28, 3/27 開催予定

第9回中国・四国ブロック小児がん看護研修会

2022年10月7日（金） zoomを用いたオンライン開催 10施設 20名 参加



2022年度
中国・四国ブロック
小児がん看護研修会 **要申込**

開催日：2022年10月7日（金）
時間：13:00～16:30
開催方法：zoomを用いたオンライン開催
参加費：無料

*ご自宅・勤務先等でお手持ちのパソコン、タブレット、スマートフォンからご参加いただけます。グループワークを行いますので一人1台のパソコン等をご準備ください。

テーマ	講師
小児がんの特徴と治療（基礎知識）	広島大学病院 小児科 満口洋子先生
小児がん看護におけるACPの概念と実際の取り組み	広島県立医科大学 小児看護専門看護師 古橋知子先生
グループワーク 自部署における小児がん終末期看護の実際（ACPについて）	

■お申込み方法
以下の申込フォームに必要事項をご記入ください。
<https://forms.gle/P1u5QW88Xoj3pdr7A>

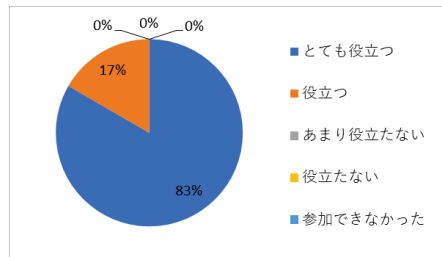
■申込締切 2022年9月26日（月）

*参加URLや講義資料等は、参加申し込み時にご記入いただいたメールアドレスにお知らせいたします。
多くの方のご参加をお待ちしています。

お問い合わせ先
広島大学病院 がん治療センター
TEL (082)257-1648・5934
Mailto: byo-renkei@office.hiroshima-u.ac.jp

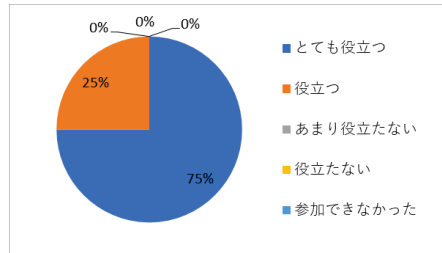
主催：広島大学病院（小児がん拠点病院）

「小児がん看護におけるACPの概念と実際の取り組み」の講義は今後の看護実践に役立つと思いますか。



- ACPについて曖昧な部分もあったので、理解を深めることができた
- EOLやACPの概念や実際について近年の研究や学会の内容を踏まえて学ぶことができた
- 現在、小児のACPについて導入を検討していたところであり、今後の実践に活用できると感じた

GW「自部署における小児がん終末期看護の実際」の講義は今後の看護実践に役立つと思いますか。



- 他施設の現状や課題を知ることで、今後の小児がんの患者やスタッフ教育についての関わりを学ぶことができた
- 各施設での取り組みや今後の課題を知ることで自分の考えや施設の取り組みを振り返る機会となった。また講義を聞いた上でのディスカッションはとても有意義なものだった。意見交換では自分と同じように悩んでいる方たちがいることを知ることができて良かった。

2023年度 第10回中国・四国ブロック小児がん看護研修会

2023年10月27日 開催予定

相談支援部会（2022年度：2回開催）

回数	日時	参加者	内容
1	2022/6/22	18施設 相談員等	第16回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会について 小児がん相談員専門研修開催について 小児がんの子どもへの教育セミナーについて 第2回小児がん相談支援部会での研修について 自己紹介および各施設の小児がん相談における現状報告
2	2022/12/21	16施設 相談員等	第17回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会について ※相談支援部会終了後、引き続き相談員研修を行った

※2016年度～2022年度 計15回開催

2023年度 相談支援部会

2023/6/28, 12/20 開催予定

中国・四国ブロックでは相談支援部会のメンバーの協力を得て「小児がん患者さんとご家族のためのサポートブック」を発行している。今後も内容の見直し、情報の更新を行い改定をしていく予定。広島大学病院ホームページにも掲載

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/childhoodcancer/supportbook>



小児がん相談員研修会

2022年12月21日（水） zoomを用いたオンライン開催

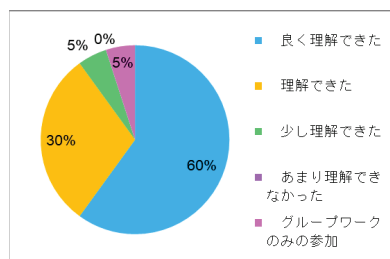
内 容	
講義	小児がんの子どもと家族の在宅支援
グループワーク	各施設における小児がん在宅医療の実際と課題 グループワーク発表

15施設 45名 参加

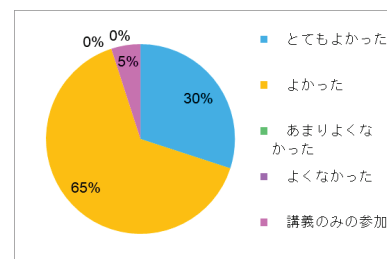
参加職種：医師・看護師・MSW
心理士・CLS・薬剤師

アンケート結果

講義『小児がんの子どもと家族の在宅支援』は理解できましたか



グループワークはいかがでしたか



- ・小児がんの在宅医療について、他施設の現状などを知ることができ良い機会となりました。
- ・意見交換では施設により症例数の差はあったものの、困りごとや課題は共通するものが多く、とても学びになりました。施設ごとのグループワークは意見がやすいと感じました。
- ・他施設の取り組みの効果や問題点など、今後も情報をいただけることで自施設の改善に役立てていきたい。
- ・こういった研修をWEBで参加できることは非常に良いと思います。
- ・成功事例や対応困難事例などをもとにディスカッションするほうが深まる気もしました。また、経験値が十分でない施設としては、レクチャー型の研修も求めています。

第6回小児がんの子どもたちの教育セミナー

2022年8月6日（土）14：00～16：00
 広島大学／zoomオンライン ハイブリッド開催

参加人数：61名 教育関係者：12 行政関係者：7
 医療関係者：24 その他：18

小児がんの子どもたちの教育セミナー

今日の教育セミナーでは、「長期入院患者の高校教育を考える～現状・課題と今後の取り組み～」をメイン・テーマとして取り上げます。
 教育関係者、医療従事者、患者とその家族など様々な立場から、これまでの取り組みについての意見交換を行い、小児がんをはじめ長期入院を必要とする患者が治療を受けながら学習を継続できるような教育環境のさらなる整備に向けた連携の場とすることを目的として開催します。

開催日時 ▶ 2022年8月6日（土）14：00～16：00

開催方法 ▶ zoomオンライン開催

対象者 ▶ 小・中・高等学校および特別支援学校の校長、教員、養護教諭等
 教育委員会等の教育行政関係者
 小児がん医療に携わる医療従事者（医師、相談員等）、患者団体関係者

要申込
 定員100名

- 第1部 - 講演

長期入院患者の高校教育を考える～現状・課題と今後の取り組み～

- 「長期入院中の高校生への教育支援：全員の状況と差別化での取り組み」
 名古屋医療センター 小児科 医師 前田 尚子 先生
- 「広島県における病児病児支援（福祉）に対する支援について」
 広島県教育委員会事務局 学びの政策推進課長 竹志 幸洋 先生
- 「広島大学附属での高校教育支援」
 広島大学附属 小児科 公認心理師 井上 雅美 先生
- 「長期にわたる入院・療養中の高校生への教育支援を継続して」
 広島県立沼田高等学校 国語科 教諭 安部 千賀子 先生
- 「広島大学医学部附属病院での高校教育支援～一人ひとりに」
 広島大学医学部附属病院 がん患者・家族サポートセンター
 医療ソーシャルワーカー 橋原 貴子 先生
- 「闘病学生へのエール」
 闘病学生患者を支援する会 久保田一男 様、鈴木 様

- 第2部 - 意見交換会

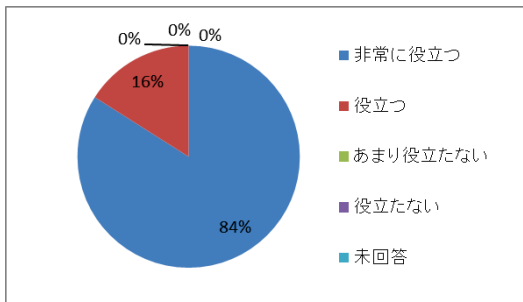
小児・AYA世代のがん患者が、長期入院中においても適切な教育を受けることができる環境を整備するために必要な支援等について、小児がん患者家族や教育関係者、医療従事者などによる意見交換を行います。

申込方法：右記QRコードより2022年7月31日（日）までにお申込みください。
<https://forms.gle/xQaBC4C31wCepDpS7>
 当日メールにて招待URL等をお送りします。

お問い合わせ：広島大学病院医療支援グループ Tel: 082-257-5279・5934

主催：広島大学病院（小児がん拠点病院） 後援：広島県教育委員会、広島市教育委員会

アンケート結果 本日のセミナーはいかがでしたか



行政関係者：在籍校によって遠隔授業への支援がスムーズに進むところとそうでないところがあり、課題となっています。今回のセミナーで、それを解決するヒントをたくさんいただきました。関係者と共有し、今後の取組へ活かしたいと思います。

高校教員：医療、行政、学校、保護者等様々な立場から貴重なお話を拝聴させていただきました。長期療養を必要とする生徒の教育保障に係る制度の改正が少しずつ改善されていますが、学校現場はまだまだ手探りの状態です。子どもたちの学びと健康を支えるためにできること、今後も考え続けたいと思います。

患者家族：関東から参加させて頂きました。関東圏は教育についてはまだまだ支援が行き届いていないことを改めて実感しました。教育について、より実践的なお話が伺えたので考えるきっかけになりました。参加して良かったと思いました。

小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存セミナー（共催）

2022年5月28日（土）14：00～16：45
 広島大学／zoomオンライン ハイブリッド開催

参加人数：50名 医師：28名
 看護師・相談員：18名
 行政：4名

小児・AYA世代がん患者 に対する妊孕性温存セミナー

第1報

日時：2022年5月28日（土）

場所：広島大学病院 臨床管理棟3階

Zoom配信併用

プログラム

- 司会・進行：川口浩史先生、武澤友弘小児がん相談員（広島大学）
- 14：00 挨拶 厚労省がん・疾病対策課
 - 14：05 挨拶 広島大学大学院医系科学研究科小児科学 岡田 賢先生
 - 14：10 「小児がん専門医が考える がん・生殖医療」
 国立成育医療研究センター小児がんセンター 松本 公一先生
 - 14：35 「本邦におけるがん・生殖医療の現状」
 聖マリアンナ医科大学 産婦人科学 鈴木 直先生
 - 14：55 「小児がん拠点病院での妊孕性温存の課題
 ～厚労科研究班実態調査報告～」
 三重大学医学部 産科婦人科 前沢 忠志先生
 - 15：15 各地域でのグループディスカッション
 テーマ「各施設における現状と課題」
 各地域ごとにZoomのブレイクアールームを準備させていただきます
 事前に指名させて頂いた方に、討議の内容を次のセッションでご発表頂きます
 - 16：15 各地域から発表＋総合討論
 - 16：45 閉会挨拶

参加費：無料

【参加申込用URL】 受付終了日時：2022年5月13日（金）12:00
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdrjRjcb0bRjvD7gmLA-8f5Qisan22_pu-SINUFA1xg/viewform

参加申込
 QRコード



令和3年度厚生労働科学研究補助金（がん対策推進総合事業）（鈴木 直）
 「小児・AYA世代がん患者に対する生殖機能温存に關する心療支援体制の
 均てん化と安全な長期検体保存体制の確立を志向した研究-患者本位の
 がん医療の実現を目指して」
 研究③小児・AYA 世代がん患者ならびに家族に対するインフォームド
 コンセントおよびインフォームドアセントの方法の検証に関する研究
 共催：広島大学病院

グループディスカッションでの意見

- 施設間で妊孕性温存の対応が大きく異なっている。
- 妊孕性温存が実施できていない施設では、妊孕性温存に関する説明が十分に提供されていない。
- 他施設の状況を知ることができ、とても参考になった。
- 妊孕性温存に関する説明資料がないために、説明ができていない。
- 男性患者への説明が難しいため、説明資料があれば、提供してほしい。
- 講義で提示された説明資料を活用していきたい。

広島がん・生殖医療ネットワーク（HOFNET）



今年度の事業計画

中国・四国ブロック 事業計画

- 中国四国ブロック連絡協議会（年1回）
- 医師間Web会議（年9回）
- 小児がんWeb講演会（年2回程度）
- がんゲノム勉強会（年5回程度）
- 看護カンファレンス（年9回）
- 中国・四国ブロック小児がん看護研修会（年1回）
- 相談支援部会（年2回）
- 相談員研修会（年1回）
- 小児がん患者の支援を考えるセミナー（年1回）
- 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会への参加
- 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院Web会議への参加
- 九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議への参加
- 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会相談支援部会への参加

広島大学病院での取り組み

- 医師主導治験（STS-J01）：シスプラチンによる内耳毒性を軽減するチオ硫酸ナトリウムの第Ⅱ相試験
- 国際共同臨床試験：肝芽腫、胚細胞腫瘍
- 小児がん患者に対する精神的・身体的症状の緩和を目標とした指圧研究
- 再発難治髄芽腫に対する臨床研究
- AYA世代がんサーボード
- 長期フォローアップ体制の見直し
- 世界小児がん啓発キャンペーンへの参加：広島城ライトアップ
- 各種イベントの開催（夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、院内コンサート、プール 他）

令和4(2022)年度の報告と令和5(2023)年度の事業計画

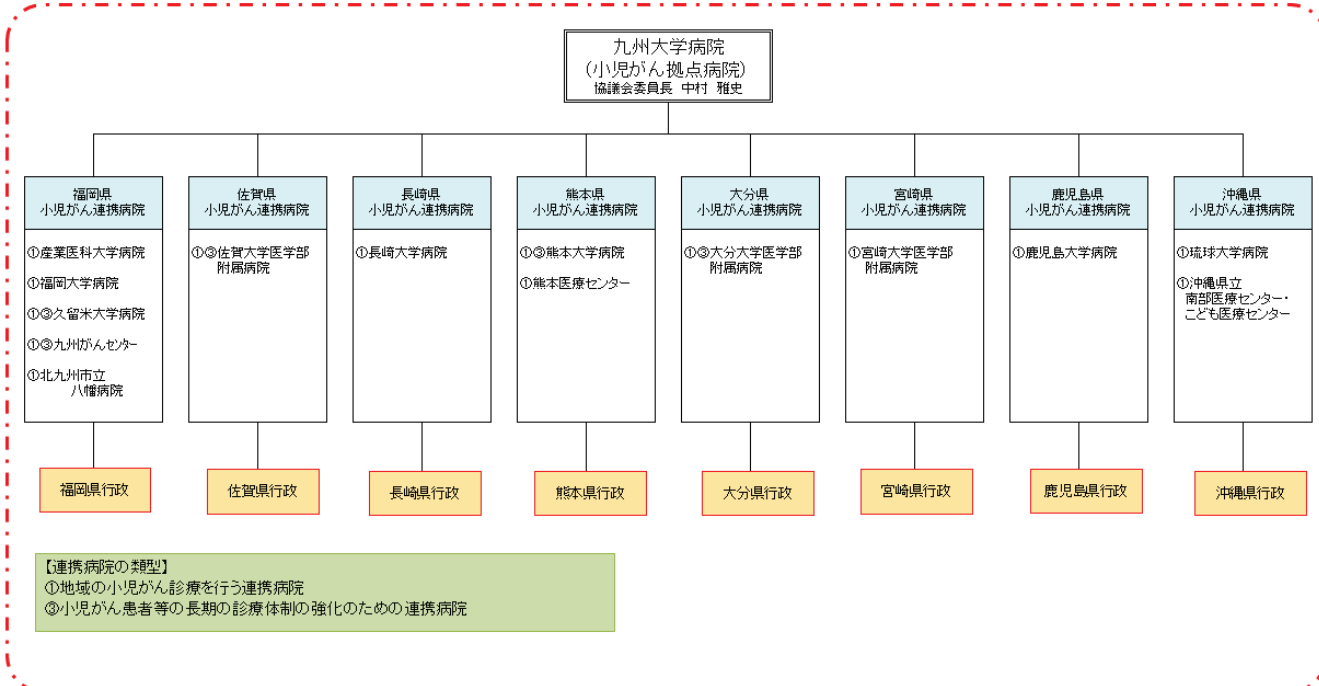
九州・沖縄ブロック

九州大学病院



九州・沖縄地域小児がん医療提供体制

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会



【連携病院の類型】
 ①地域の小児がん診療を行う連携病院
 ③小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院

九州・沖縄地域 小児がん医療提供体制協議会



①令和4（2022）年度事業報告

1-1.九州・沖縄ブロックの事業報告

1-2.九州大学病院の取り組み

②令和5（2023）年度事業計画

3

第18回 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 (WEB会議)

開催日：令和5年1月6日(金)

参加施設数：24施設(医療機関16施設、行政機関8施設)

会議要旨

【報告事項】

- 1) 小児がん拠点病院連絡協議会
- 2) 小児がん拠点病院連絡協議会・相談支援部会
- 3) 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議
- 4) 九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議
- 5) 九州大学病院小児緩和ケアチーム活動報告
- 6) 九州大学病院小児がん相談支援活動報告
- 7) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 第7回相談支援部会/第1回小児がん相談支援研修会報告
- 8) 九州・沖縄ブロック小児がん看護研修会
- 9) 小児がんハンドブック(九州・沖縄版)の作成について
- 10) 令和4年度松本班連携病院QIについて
- 11) 市民公開講座について

【その他】

- ・「小児がん拠点病院等の整備に関する指針」に関する説明会開催についての要望書提出について

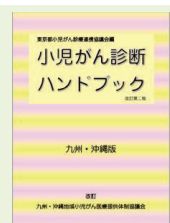
【各県より報告】

- ・九州・沖縄地域各県の妊孕性温存、高校生の学習支援、診療機関との連携について



小児がん診断ハンドブック刊行について

九州・沖縄ブロック内における小児がんの早期発見・早期診断ならびに小児がんを発症した患者さんが速やかに小児がん拠点病院および小児がん連携病院で治療が受けられる医療提供体制を構築するため九州・沖縄版 小児がん診断ハンドブックを刊行した。連携病院の相談窓口や九州の症例提示なども追加し、**地域性に則した内容**となっている。



4

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 第7回 相談支援部会 (WEB会議)

開催日：令和5年1月6日(金)
場所：九州大学病院(小児がん拠点病院)
参加施設数：15施設(29名)

会議要旨

- 1) 開会挨拶 九州大学病院 小児科長・小児医療センター長 大賀 正一
- 2) 第16.17回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会報告

【報告事項】

- ①小児がん拠点病院等の整備指針や第4期がん対策基本計画策定に向けた動きについて
- ②中央機関から厚生労働省と文部科学省に小児・AYA世代がん患者の教育に関する要望書を提出
- ③ブロックにおける拠点病院と連携病院との連携体制について事前アンケート結果
- ④厚生労働省の担当者から小児がん拠点病院等の整備に関する指針の見直しの要点について

- 3) 閉会挨拶 九州大学病院 小児外科長 田尻 達郎

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 研修会・勉強会報告①



小児がん拠点病院ネットワーク事業 小児がん拠点病院テレビ会議(第82回～第93回)

- ・平成26年7月より、毎月第4月曜日16時より開催
(協議会全16施設+広島大学、今年度より山口大学、愛媛大学、愛媛県立中央病院も参加している)
- ・今年度より**Webセミナー**を開催

◎第82回(令和4年4月25日) 当番施設：久留米大学病院

症例提示	「難治 KMT2A-AFF1 陽性 mature B ALL に対する今後の治療戦略」	愛媛大学医学部附属病院 小児科 新居田 真生、他
討論会	「重症心身障害児・医療的ケア児の小児がん診療」	

◎第83回(令和4年5月23日) 当番施設：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

症例提示	「松果体部混合型胚細胞腫瘍の治療中に髄膜播種を繰り返した3歳男児」	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児血液腫瘍内科 玉城 倫
討論会	「化学療法を行っている小児例のCOVID19対応について」	

◎第84回(令和4年6月27日) 当番施設：熊本大学病院

症例提示	「NSE上昇を認めた未分化胚細胞腫瘍の一例」	熊本大学病院 小児科 大塚 ゆかり
討論会	「家族支援(付きそい時の精神的負担、公的支援、がん相談センター)」	

◎第85回(令和4年7月25日) 当番施設：北九州市立八幡病院

症例提示	「重症鉄欠乏性貧血を契機に診断されたオスラー病の一例」	北九州市立八幡病院 小児血液・腫瘍内科 松石 登志哉
討論会	「小児血液・腫瘍科医のワークバランスについて」	

◎第86回(令和4年8月22日) 当番施設：佐賀大学医学部附属病院

症例提示	「治療に難渋している骨髄肉腫の女児例」	愛媛大学病院 小児科 鈴木 遥香、他
討論会	「小児ITP治療について」	

◎第87回(令和4年9月26日)

Webセミナー	血液免疫腫瘍領域におけるがん素因	名古屋大学医学部附属病院 小児科講師 村松 秀城 先生
---------	------------------	-----------------------------

◎第88回(令和4年10月24日) 当番施設：長崎大学病院

症例提示	「PRETEXT-IV肝芽腫の11歳女児例」	長崎大学病院 小児科 高瀬 雄介、他
討論会	「小児急性リンパ性白血病の治療について」	

◎第89回(令和4年11月28日) 当番施設：大分大学医学部附属病院

症例提示	「肝右葉切除・化学療法終了後にAFPが再上昇しているものの再発部位が不明である9歳女児例」	愛媛県立中央病院 小児科 河上 早苗、他
討論会	「脳腫瘍のフォローアップ体制」	

◎第90回(令和4年12月26日) 当番施設：宮崎大学医学部附属病院

症例提示	「ハプロ移植後の重症SOSへの体外限外濾過療法(ECUM)の使用」	宮崎大学医学部附属病院 小児科
討論会	「ALLの外來維持療法中の管理について」	

◎第91回(令和5年1月23日) 当番施設：鹿児島大学病院

症例提示	「髄注後の髄液漏の一例」	鹿児島大学病院 小児科 中村 達郎
討論会	「髄注について」	

◎第92回(令和5年2月27日) 当番施設：琉球大学病院

症例提示	「尿管腫瘍として発症した乳児神経芽腫の1例」	琉球大学病院 第一外科 馬場 徳朗、他 小児科 崎山 秀樹、他
討論会	「移行期医療について」	

◎第93回(令和5年3月27日) 当番施設：産業医科大学病院

症例提示	「治療選択に難渋した肋骨原発骨肉腫の一例」	産業医科大学病院 小児科 浅井 完
討論会	「小児がん患者の学習支援に関して」	

九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 研修会・勉強会報告②

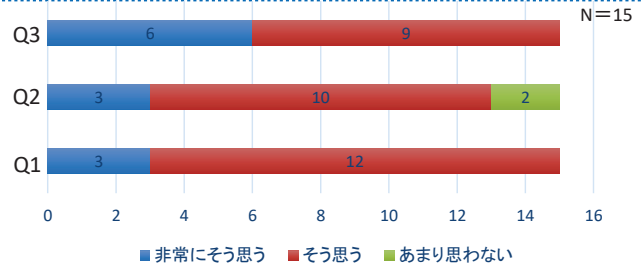


小児がん拠点病院ネットワーク事業 九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議

- 平成30年7月より年3回、第4月曜日17時より開催
- 参加施設数：16施設

看護ネットワーク会議終了後のアンケート結果（一部抜粋）

- Q1看護ネットワーク会議では十分な情報交換ができた
- Q2看護ネットワーク会議により他施設との連携を深めることができた
- Q3令和5年度も看護ネットワーク会議に参加し、他施設と情報交換をしたい



◎第1回

開催日時：令和4年7月23日（月）17：15～18：15
テーマ：「参加施設の連携強化に向けた取り組み」

◎第2回

開催日時：令和4年11月28日（月）17：15～18：15
テーマ：「小児病棟における災害対応(在宅含む)」

◎第3回

開催日時：令和5年1月23日（月）17：15～18：15
テーマ：「倫理的課題を含む困難場面の事例検討」

会議終了後のアンケートでは、ほとんどの施設がネットワーク会議により、施設間の情報交換や連携ができたと回答した。

中国・四国ブロックネットワーク会議

隣接するブロックとの連携を図るため、中国・四国ブロックの会議にも参加しており、医師・看護師・小児がん相談員が広域で連携し検討、情報交換を行っている。

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 研修会・勉強会報告③



小児がん医療従事者研修事業 第48回小児緩和ケアチーム勉強会 特別講演

- 開催日時：令和5年1月27日（金）18:00～19:00
- 開催方法：オンライン開催
- 演題：「AYA世代の患者さん達とのいのち・生死をめぐる対話」
- 講師：公益財団法人がん研究会 有明病院大島 淑夫 先生
- 申込者：226名 参加者：139名



令和4年度九州・沖縄ブロック 小児がん看護研修会



- 開催日時：令和4年10月29日（土）9:30～12:30
- 開催方法：オンライン開催
- 対象：小児看護・小児がん看護に携わる看護師
- 申込者：62名 参加者：41名



小児がん相談支援事業 第5回小児がんの子どもを育てる講演会

- 開催日時：令和4年9月2日（金）16:00～18:00
- 開催方法：オンライン開催 期間限定アーカイブ配信
- 視聴申込者：540名, 当日参加者：374名
アーカイブ再生回数：659回（配信期間 9/2～11）



九州・沖縄小児がん医療提供体制協議会 市民公開講座 「みんなで考えよう 未来ある子どもたちのために」



- 開催日時：令和5年1月7日（土）17:30～18:45
- 共催：がんの子どもを守る会九州北支部
- 開催方法：YouTubeライブ配信
- 申込者：124名



九州・沖縄地域 小児がん医療提供体制協議会



①令和4（2022）年度事業報告

- 1-1. 九州・沖縄ブロックの事業報告
- 1-2. 九州大学病院の取り組み

②令和5（2023）年度事業計画

九州大学病院について

～九州大学病院は4つの拠点病院に指定されています～

都道府県がん診療 拠点病院

拠点病院間の連携、県全体の中心的役割を担う拠点病院

がんゲノム医療 中核拠点病院

国内の「がんゲノム医療」の中心的役割を担う中核拠点病院

小児がん拠点病院

九州・沖縄地域唯一、近隣地域との連携・協力を担う拠点病院

造血幹細胞移植 推進拠点病院

九州ブロックの中心的役割を担う推進拠点病院

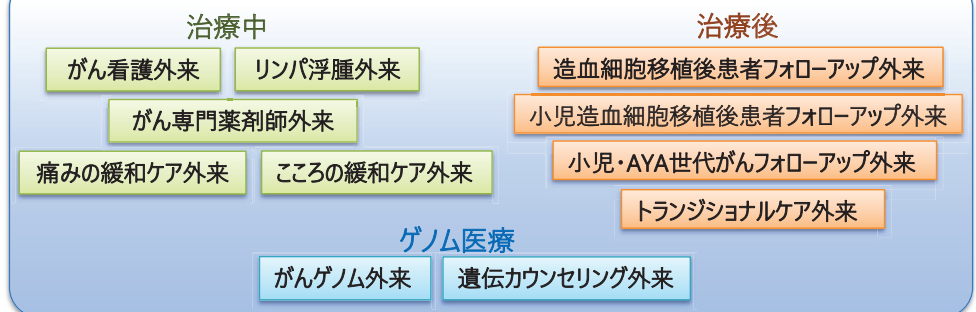
●キムリア治療提供可能施設

小児血液・がん専門医 認定研修施設

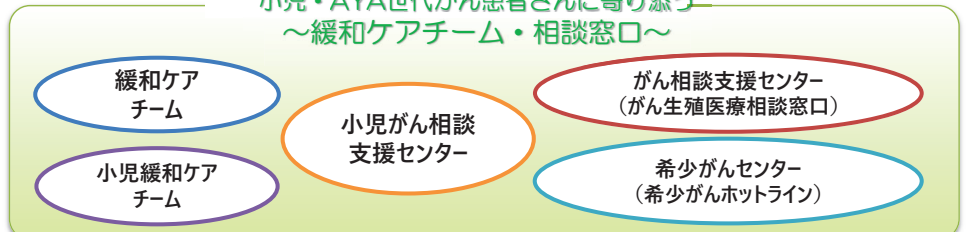
●九州近郊小児がん研修施設群 (九州大学)

- ・認定研修施設
九州大学病院
- ・関連研修施設
九州がんセンター
産業医科大学病院
北九州市立八幡病院
久留米大学病院
佐賀大学医学部附属病院
長崎大学病院
大分大学医学部附属病院
宮崎大学医学部附属病院
琉球大学病院
沖縄県立南部医療センター・
子ども医療センター
山口大学医学部附属病院
愛媛大学医学部附属病院
愛媛県立中央病院

～がん治療関連の多様な専門外来～



小児・AYA世代がん患者さんに寄り添う ～緩和ケアチーム・相談窓口～

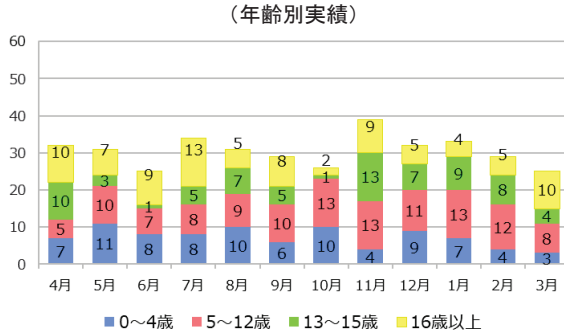
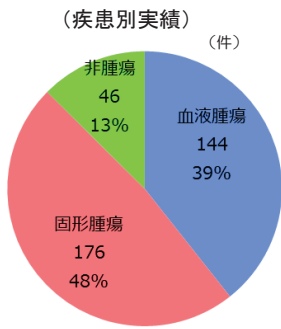


小児緩和ケアチーム 活動報告

令和4年度小児緩和ケアラウンド実績

●令和4年4月～令和5年3月実績件数 366件
●週1回、カルテ回診・病棟回診、非がん患者にも対応している。

地域・人とつながる
緩和ケア提供体制を構築



小児緩和ケアチーム勉強会

第48回は特別公演として、オンライン配信を行った。

	日時	演題	講師	参加人数
第44回	2022年5月31日(火) 17:00～17:30	小児救急・集中治療における緩和ケア～現在、そしてこれから～	九州大学病院 小児科(小児救命救急センター) 助教 東加奈子 先生	65名
第45回	2022年7月26日(火) 17:00～17:30	患者の話を“聴いて”学ぶ -小児漢方治療・総排泄腔道遺症支援に関連して-	九州大学病院 小児外科(医学部保健学科) 講師 宮田 潤子 先生	26名
第46回	2022年10月25日(火) 17:00～17:30	小児医療の倫理：子どもの尊厳と最善の利益をいかに捉えるか	九州大学病院 ARO次世代医療センター学術研究員 河原 直人 先生	36名
第47回	2022年11月22日(火) 17:00～17:30	子どもの視点に立ち、子どもの声を聴く	九州大学病院 小児がん相談支援センター相談員(看護師・子ども療養支援士) 池田 世里奈 相談員	27名
第48回	2023年1月27日(金) (特別講演) 18:00～19:00 (オンライン配信)	AYA世代の患者さん達とのいのち・生死をめぐる対話	がん研有明病院 腫瘍精神科 医長・がん治療支援緩和チームリーダー 大島 淑夫 先生	136名
第49回	2023年3月28日(火) 17:00～17:30	小児がん患者に対する栄養士の関わり	九州大学病院 栄養管理室 福田 知夏 管理栄養士	21名



グリーンカードについて

小児緩和ケアチームの活動の一環として、グリーンカードの配布を行っている。ご遺族が当院でのグリーンケアを希望された際に、当院への連絡手段のひとつとなることを目的とし、グリーンケアも積極的に進めている。また、必要に応じて緩和ケアラウンドにて検討し、年3回グリーンカードWGを開催している。

WG	開催日	カード配布期間	対応件数
第24回	7月12日	2022.2月～5月	0
第25回	11月15日	2022.6月～9月	2
第26回	2月28日	2022.10月～2023.1月	1

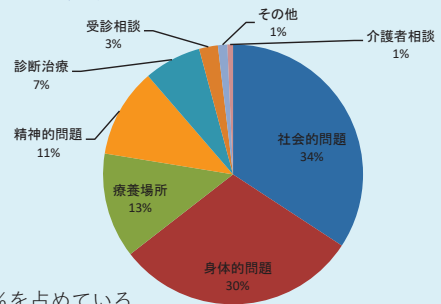
小児がん相談支援センター 活動報告①

【九州大学病院の小児がん相談支援】

令和4年度小児がん相談支援件数

	対面対応	電話	E-mail	オンライン	合計
小児科病棟	84	31	0	0	115
相談支援センター	115	125	5	0	245
学校連絡会	0	2	1	6	9
合計	199	158	6	6	369

相談内容内訳



3名の相談員(看護師2名・CCS1名)で小児がん相談の対応をしている。

相談内容の内訳としては、例年と大きな変化はなく、院内の患者の相談が全体の95%を占めている。

【院内】外来患者からの相談は、学校生活や就学・就労支援に関するものが多い。また、身体的問題に関する相談もあり、適宜医師へ相談し対応している。入院中の患者・家族からの相談は、経済的負担や入院中の困りごとに関する相談が多い。また、ご家族やAYA世代の患者への心理的サポートへの介入も増えている。初回入院時に「小児がん患者とご家族のためのサポートブック」をお渡ししたり、患者・家族の不安が最小限になるようタイムリーな対応を心掛け、多職種と連携を図るようにしている。

【院外】多くが家族からの相談であり、治療やセカンドオピニオンについての問い合わせであった。件数は少ないが他の医療機関からAYA世代患児への関わり方などの相談があり適宜対応している。

①相談支援部会、相談員継続研修会の開催 【拠点病院としての取り組み】

令和4年度より相談員継続研修会を開催。「緩和ケア」をテーマに講演とグループワークを実施。他施設と情報交換ができる貴重な機会となった。

②九州・沖縄地域の連携病院間での連携強化

拠点病院と連携病院間だけでなく、連携病院間の情報交換、相談ができる環境整備を進めている。

③高校生(AYA世代)患者への教育支援

④サポートブック改訂

昨年度に引き続き、情報を更新し改訂を行った。協議会、相談支援部会、全国の小児がん拠点病院へ配布。



小児がん相談支援センター 活動報告②

【九州大学病院のAYA世代がん患者さんへの支援】

学校連絡会の開催

学校と病院をWEB会議システム等でつなぎ、入院中の患者さんについてきめ細やかな情報共有が行えるよう、サポートを行っている。

令和4年度は9回開催

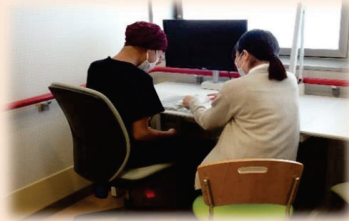
AYA世代（高校生）の遠隔授業のサポート

コロナ対策により、多くの学校でWeb授業が可能となり、高校生が病室で授業を受けることができるきっかけとなった。高校との学校連絡会を開催して情報共有し、相談員が担任の教員と連携を図り、課題の受け渡しや必要な機材の貸し出し等のサポートを行い、学校と病室をつないだWeb授業を実現している。

学習サポーターによる学習支援

令和元年度より、九州大学の学生による、学習サポーターを導入している。感染対策に留意しながら、主に高校生や中学生を対象に学習指導を行っている。令和4年度は8名の学習サポーターが週2～3日、交替でサポートを行った。

令和4年度のサポート人数は延べ143人でした。



AYA week 2023 AYA世代応援フラッグ

AYAweek2023の一環として、院内スタッフと協力し作成した応援フラッグを院内に掲示し、AYA世代がん患者さんへエールを送った。

次年度のAYA会開催にむけ、九州大学病院小児がん支援センターとして患者支援団体のAYA会に参加した。

院内受験のコーディネート

他県から治療のため入院している患者さんに対し、院内学級と連携して受験校との調整を行った。

今年度は私立高校一般入試を院内にて実施した。

小児・AYA世代がんフォローアップ外来

2022年度は51件の受診があった。

事前の間診票の結果に基づき、晩期合併症や生活状況、就学・就労の状況、病識等について相談員が面談を行っている。必要に応じて他科への紹介や情報提供等を行い、他診療科、多職種で長期にわたりサポートができる体制をとっている。

13

患者の発育および教育に係る環境整備 付添い家族への支援



●プレイルーム

未就学児

院内保育士による保育活動
プレイルーム完備

小中学校

千代小・中学校病弱特別支援学級（院内）
学校連絡会の開催

高校生

地元高校教諭との個別連携・学校連絡会の開催
AYA世代のための学習スペース設置
学習サポーターによる学習支援

Study Place
- AYA -



院内学級（小学部・中学部）

退院の前にはWEB会議システムを利用して学校連絡会を開催し、原籍校への復学支援を行っている。また、原籍校の卒業式や各種イベントにもオンラインで参加している。高校生のための院内学級は未設置だが、学習サポーターによる学習支援を行っている。



クリスマスには、病棟内の中庭「どうぶつらんど」にイルミネーションの装飾を行いました



AYA世代のための学習スペース Study Place -AYA-

高校生以上の患者さんが学習に使用できるスペースを設置し、高校の遠隔授業や週2回の学習サポート、自主学習等で利用している。

令和4年度の利用者数：延べ88人

ファミリーハウス宿泊補助

18歳以下の子どもさんのご家族が病院に隣接する「恵愛団森の家」や「ファミリーハウス」を利用される際に、1泊につき1000円で宿泊できるように、宿泊費の補助をしている。

令和4年度の補助件数：541件

14

小児がん拠点病院事業（冊子の改訂）

「これから治療を受ける小児がんの子ども・家族のための手引き」を改訂

小児がんと診断されたときから様々な不安をかかえている患者さんやご家族への情報提供を目的とし、2018年に発行した「小児がんの子ども・家族のための手引き」を改訂し、第3版を2023年3月に発行した。今回の改訂では「**化学療法を受ける人の食事について**」を追加し、食事の注意点や工夫点などを具体的に記載した。

患者さんやご家族だけでなく医師・看護師・MSW等にも有用な内容となっている。



目次

1	はじめに	3
2	こども自身へのサポート	4
3	きょうだいへのサポート	6
4	家族へのサポート	9
5	小児がんとは	13
6	治療について（小児科から）	17
7	治療について（小児外科から）	19
8	こどもへのお薬の飲ませ方	21
9	治療中のお子様と御家族の抗がん剤曝露対策	23
10	看護師が実施する抗がん剤曝露対策	26
11	自宅での抗がん剤曝露対策（家族向け）	29
12	治療中の環境整備（抗がん剤曝露の観点から）	31
13	治療中の接触感染対策	33
14	乳幼児の親御さんへ（保育士より）	35
15	小・中学生の親御さんへ（学校教諭より）	38
16	治療中の子どもの栄養管理	40
17	化学療法を受ける人の食事について（病棟編）	42
18	これからのこと、告知の話	44
19	AYA世代のみなさんへ	46
20	治療中に心がけたいこと（リハビリテーション部より）	48
21	小児病科医からのメッセージ	50
22	「小児緩和ケアチーム」について	52
23	小児がんの子を持つ親として伝えたいこと	54

九州・沖縄地域 小児がん医療提供体制協議会



①令和4（2022）年度事業報告

- 1-1. 九州・沖縄ブロックの事業報告
- 1-2. 九州大学病院の取り組み

②令和5（2023）年度事業計画

令和5(2023)年度事業計画

◎第19・20回 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会

◎第8回 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 相談支援部会

◎九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会研修会・勉強会

- ▶九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議（年11回／第94～104回）
小児・AYA世代がん患者の妊孕性温存、がんゲノム医療についてWebセミナー開催
- ▶九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議（年3回）
- ▶九州・沖縄ブロック小児がん看護研修会
- ▶九州・沖縄ブロック小児がん相談員継続研修（第2回）
- ▶小児緩和ケアチーム勉強会（年5回／第50回～54回）
- ▶小児緩和ケアチーム勉強会 特別講演
- ▶小児がんのこどもの教育を考える講演会（第6回）
- ▶九州・山口小児血液・免疫・腫瘍研究会
- ▶九州地区小児固形悪性腫瘍研究会
- ▶がんの子どもを守る会との共催による市民公開講座
- ▶AYA会の開催

17

令和5(2023)年度 新規事業

小児・AYA世代がん患者の 発育や教育に係る支援の充実に向けて

●AYA 会の開催

- ①AYA世代がん患者に対する情報提供と療育・発達の支援
- ② AYA世代がん患者と家族の交流 を目的とした開催

●教育環境の整備

テレプレゼンスロボット kubiを活用したオンライン授業のさらなる充実

●妊孕性温存、遺伝カウンセリングについてセミナーの開催

九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議でのWebセミナー

18